2015年 8月 24日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部 文科 I 類 1年

参加プログラム: 2015 年第 2 回東京大学国際本部担当奨学金付き夏季短期留学プログラム

派遣先大学: The University of Sheffield

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

QS 社の世界大学ランキング(2014/15)では、69 位に位置づけられる(ちなみに東京大学は 31 位)。 2011 年には、Times 社の Higher Education Awards で、University of the Year に選ばれた。 シェフィールド大学の生協(Students' Union)は、Times Higher Education Student Experience において、

2009年から今年(2015年)まで連続して1位に選ばれている。

参加した動機

海外が初めてであり、また TOEFL でも Speaking が苦手な僕にとって、いきなり現地大学の授業を英語で受ける自信がなかった。このプログラムは、英語能力が中程度の学生を目当てとしており、語学のクラスや講義のサポートがある点で、現在の僕に適していると考えた。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出が必要な書類が五月雨式に送られてくるので、メールは常にチェックする必要がある。提出書類のほとんどに期限が定められているので、それぞれを不備がないように提出するのは、思いのほか骨が折れた。僕の場合は、準備の期間がテスト前やテスト中にかぶっていたので、複数の書類に対して注意を払うのは、一層大変だった。

なお、航空券の手配は、準備手続きのうちの大きな位置を占める。僕は、大学のガイダンスを聴いてから予約しよう、と決めていたので、20日前に申し込むことになった。安さを追求するという点では、一歩も二歩も遅れたと思うが、逆に、状況もわからないままとりあえず予約してしまう、というのも無謀だと思った。この点、なかなか難しい。ただ、地図で確認すればわかるとおり、シェフィールドはロンドンヒースロー空港より断然マンチェスター空港に近いところに位置している。「イギリス=ヒースロー空港利用」と思いこまず、マンチェスター空港利用の選択肢も視野に入れてほしい。僕自身は、マンチェスター空港を利用して大正解だったと思っている。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

イギリスに到着してから、空港の入国管理局で Short-term Student Visa を発行してもらった。シェフィールド大学からの受入許可証(ビザレター)に、このビザを発行する旨の要請が記してあったので、受入許可証を見せたら難なくビザを発行してもらえた。そのほかに提示を求められたのは、帰りの航空券(e チケットの控え)のみであった。口頭での質問も、ほとんどなかった。

僕は、「ビザの発行の手続きは相当大変だ」と聞いていたので、様々な書類を持参した(東京大学の英文在学証明書・銀行の英文残高証明書 [ゆうちょ銀行では発行に 500 円かかった]・プログラム料金支払完了画面・空港から大学までのタクシーの予約および支払完了画面)が、これらが必要になることはなかった。また、財政の証明として提示を求められるのに備えて、クレジットカードに加えてキャッシュカード(セゾンの「NEO MONEY」)を慌てて手配したが、これらカードも提示は求められなかった。

出国前に、ビザの発行を国内で済ませようと在日英国大使館に足を運んだが、「ビザの発行は新橋のビザ申請センターに行ってください」と物理的に「門前払い」されてしまった。結局、新橋のビザ申請センターには行かなかったが、最終的には現地の空港でもらうのが一番楽であった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

健康に問題はなく、予防接種も不要だったので、特別な準備はしなかった。

一応、常備薬として、ビタミン剤・胃腸薬を持参した。出入国で検査されるのに備えて、英語で薬の名称 と効能を記した紙を付していったが、杞憂に終わった(行程を通じてどこでも、薬について尋ねられること はなかった)。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で指定された海外保険「付帯海学」と、エマージェンシーアシスタンスサービス「OSSMA」に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

特に行わなかった。教務課の窓口で確認した。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

僕の、出発前の TOEFL のスコアは、83 であった。

Sセメスターの試験が終わってから2日後に出発だったため、このプログラムに向けての語学学習は特にできなかった。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

準備が不十分であったり、不備があるのではないかと不安でいると、おろおろすることになり疑われることにもつながるので、やはり準備はやり過ぎるほどでいいと思う(「備えあれば憂いなし」)。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前は語学のクラス、午後は講義とそのサポートクラスだった。

午前の語学のクラスは、ELTC(English Language Teaching Centre)の建物で行われた。初日のテストによってクラスが割り振られた。一クラスは 15 人程度の少人数で、教科書の学習やそれに関連した発表・ミニゲームなどを行った。クラスの学生はほとんど東アジア人(日本・韓国・中国)で、僕のクラスはそのほかにスペイン人とイラク人(この二人は社会人だった)が 1 人ずついた。先生は 2 人いて、月火金と水木で分担して授業を行った。宿題は、あまり出なかった。

午後の講義のクラスは、2週間のあいだに全部で5回の講義があり、それぞれの講義の前後に

「Preparatory Seminar」と「Follow-up Seminar」が付いていた。5回の講義はオムニバス形式で、テーマは気候変動・民主主義・文学・イギリスのテレビドラマ・犯罪率と、多岐にわたった。前後のサポート授業の先生は、2週間を通じて1人だった。「Preparatory Seminar」では、講義で扱う分野のキーワードや、前提となる知識の紹介を受けた。「Follow-up Seminar」では、講義の内容の確認・まとめや、内容に関してディスカッションを行った。

②学習・研究面でのアドバイス

午後の講義は、母国語の日本語で聞いても歯ごたえがあるような内容だったので、英語ですべての内容を理解するのは難しかったが、「Preparatory Seminar」のおかげで、議論の中心をつかむことはできたと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

午前の授業では、文法・語法に加えて、発音も教わる機会があった。「正統派イギリス英語」を早い時期に 学べたことは、とてもよかった。

外国語として英語を学ぶと、どうしても「日本なまり」がついてしまう。「日常会話はできます」といっても、汚い英語でかろうじて通じているのでは格好悪いので、なるべくきれいで上品な発音を習得するのが、今後の課題の一つだと思った。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

シェフィールド大学から指定された、Allen Court という大学の宿舎を利用した。宿泊料金は、授業料とあわせてプログラム料金 869 ポンド(約 16 万円)に含まれていた。大学の建物から $5\sim10$ 分くらいの距離だった。

宿舎の内部は、6つの寝室と共用キッチンからなる「flat」が、各階に $4\sim5$ つある構造だった。寝室には、トイレと洗面台とシャワーが一緒になったバスルーム・ベッド・勉強机とイスのほか、備え付けの棚もあった。貸し出しの、シーツ・枕カバー・掛け布団カバー・バスタオル・ハンドタオル(各 1つ)が置いてあった。寝室に清掃が入ることは、2 週間のあいだにはなかったようであった。

flat ごとにある共用スペースには、キッチンのほか、ソファーとテレビがあった。キッチンには、シンクと調理台・コンロ(炎ではなく電熱線のタイプ)・冷蔵庫2つ・電子レンジ・オーブン・電気ポット・食パン焼き器・備え付けの棚・アイロンがあった。調理器具は、レンタルされたものが段ボール箱に入って置いてあった。中身は、なベ・フライパン・皿・フォーク・ナイフ・スプーン・まな板・包丁・クッキングばさみ・お玉・へら・フライ返し・栓抜き・缶切りなど、台所用品はひと通りそろっていた。ただし、スポンジ・食器用洗剤などの消耗品は、一切なかった。

個人的な意見として、電子レンジは日本に比べて高出力(800~900W)なので、注意する必要がある。 温めようとしたレタスが、危うく焦げそうになった。

ランドリーは、プリペイドカードに、オンラインでクレジットカードからチャージする方式だった。一回につき、洗濯が 2.8 ポンド、乾燥が 1.3 ポンドだった。チャージは 5 ポンド単位なので端数が出てしまうが、カードを返却する際にその端数は帰って来なかった。

僕の寝室では、当初から洗面台の排水口が詰まっており流れがわるかったので、宿舎の受付に申し出たところ、ほどなくしてスタッフが部屋に来て詰まりを取り除いてくれた。東京大学のほかの学生の中には、シャワーの排水口が詰まっていたり、トイレが流れなかったりした部屋もあったようである。

僕の flat では、5 部屋が東京大学の学生で、もう 1 部屋は神戸大学からの学生(僕たちのプログラムの 2 週目から入居してきた)だった。



【写真 1】Allen Court の受付



【写真2】寝室



【写真3】バスルーム



【写真4】共用キッチン



【写真5】ランドリー

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

シェフィールドは8月でも涼しく、最低気温が9℃になる日もあった。日中、日なたに居たり活動しているときには半袖で十分であるが、日が落ちてからはもちろん、日中でも風が吹いているときは、結構寒く感じられた。僕が滞在した2週間のあいだで、雨が降ったのは1日だけだった。風が強い日は多かった。

緯度が 53 度くらいなので、夏はとても日が長い。サマータイムを実施しているということもあって、日の出が午前 4 時半から 5 時、日の入りが午後 8 時半から 9 時ごろとなっていた。つまり、夜の 9 時ごろまで外は明るいのである。「せっかく外国に来たのだから、明るいうちは活動しなければもったいない」と思い、なんだかんだしているうちに、暗くなってふと時計を見ると、もう夜の 9 時…という次第で、結局寝るのが遅くなってしまう、というのが常になってしまった。

大学周辺では、あまり人は多くなかった。僕らが行った時期は夏休み中で特に人が少なかったようで、先生によれば、普段(学期中)は通りが学生であふれているそうだ。

公共交通機関は、バスと路面電車(tram)がある。バスには多くの種類があり、料金もさまざまである。ちなみに、Bakewell(シェフィールドから 25km くらいの距離)までバスで行ったときは、片道 45 分間かかったが、料金は往復券で 5.5 ポンドだった。路面電車は 10 分ごとくらいに来る(行き先は異なる)。路面電

車と、それと同じ会社のバスの、シェフィールド市内一日乗車券は、3.9 ポンドだった。

大学は街の中心部の西側に位置している。街の真ん中までは、歩いて 15~20 分くらいである。City Centre 地区の東側にあるシェフィールド駅までは、歩いて行ける距離だが、路面電車も利用できる。

街にある小売店の多くは、夕方5時や6時で閉まってしまう。それ以降開いているのは、レストラン・パブ・スーパーである。スーパーは、比較的小さい店舗が多く分布していた。

食事は、外で食べるか・買ってくるか・自分で作るか、のいずれかであった。朝食は、flat の共用スペースで、シリアルなどを食べることが常だった。昼食は、友達と一緒に外で食べることが多かった。午前の授業を受ける ELTC の中のカフェ、午後の授業を受ける法学部棟の中のカフェで食べたほか、道ばたの Fish and Chips 屋で買って公園の芝生に座って食べたりもした。夕食は、友達と一緒のときは外で食べた。ひとりのときは、スーパーでパンやサンドイッチ、出来合いやレンジで温める惣菜を買って食べた。簡単な調理をすることもあった。

便秘になると体調を崩しやすくなるから、食物繊維を積極的に摂ることを心がけた。ミニトマト・レタスを生で食べたほか、ブロッコリーやアスパラを茹でたりした。シリアル・ヨーグルト・チーズも意識して食べた。

水道水は、飲めないと聞いていたが、現地の先生は普通に飲めると言っていた。実際に飲んでみたが、特に異常はなかった。シェフィールドのすぐ西側には、広大な Peak District National Park が広がっていて、そこは Buxton というブランドのミネラルウォーターの採水地であるから、シェフィールドは、イギリスの中でも水には恵まれた場所であると思う。

スーパーに、寿司の小パックが売られていたので、購入してみた。味も、なかなか忠実に再現してあると思った。

石けんは、日本から持って行ったほうがいいと思う。外国で買っても、肌に合うかどうか分からないと思う。僕は固形石けんを日本から持って行って、ちょうど2週間で使い切れた。

お金に関しては、周知の通り、少額からでも VISA カードが使える。はじめの 1 週目は、なるべく VISA カードを使うようにしてみたところ、ほとんど現金を使わなくても生活できた。しかし、交通機関やいくらかの店では、VISA カードが使えないところもまれにあった。

ちなみに個人的には、ポンド表記に慣れず、金銭感覚が少し狂った。



【写真6】シェフィールド市内



【写真 7】City Centre 付近



【写真8】スーパーで購入した寿司



【写真 9】 硬貨を集めると、一つの盾の図柄 になる。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

シェフィールドは、イギリスの中でも最も治安がいい都市であると、大学のスタッフのかたが言っていた。実際、とても落ち着いた街であるとの印象を受けた。

医療機関を受診する機会はなかった。初日のオリエンテーションで、心身の健康も含めて困ったことは遠 慮せず何でも相談するようにと言われていたので、安心して過ごすことができた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

- ○プログラム料:869 ポンド〈約16万円〉(授業料·宿泊費。食事なし。)
- ○航空運賃:285,210円(マンチェスター空港を利用。ルフトハンザドイツ航空、行きはフランクフルト・帰りはミュンヘンで乗り換え。20日前くらいに H.I.S.で予約。)
- ○海外旅行保険「付帯海学」: 6,540 円
- ○エマージェンシーアシスタンスサービス「OSSMA」: 3,240 円
- ○食費・日用雑貨:約70ポンド〈約13,000円〉
- ○交通費〔平日〕: 0 ポンド(宿舎から大学まで徒歩。)
- ○娯楽費・おみやげ代ほか:約90ポンド〈約17,000円〉

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

「奨学金付き」プログラムなので、東京大学からの案内に従い、JASSO から 80,000 円の支給を受けた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

ELTC の social activity で、様々な企画が催されていた。

土曜日には ELTC が手配してくれたバスで、チェスターへ行った。参加費は 5 ポンド。要予約。チェスター市内は完全に自由行動だった。週によって行き先は異なる(リバプールなど)。

スポーツも、ほぼ毎日、複数の種目が催されていた。僕が参加したのはアイススケートで、近くのリンクまで路面電車で移動した。交通費 3.9 ポンド、入場料・レンタル料あわせて 3.6 ポンド。

平日の午後には、Afternoon Tea にも参加した。他にも、Baking Competition なども開催されていた。平日の放課後、友達と一緒にBakewell へ行って、Peak District National Park の観光をした。



【写真 10】チェスター



【写真 11】チェスター大聖堂



【写真 12】チェスター



【写真 13】アイススケート



【写真 14】Bakewell



【写真 15】Peak District National Park



【写真 16】 Peak District National Park

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

初日のオリエンテーションで、学習・日常生活・緊急事態などについての説明や注意があった。心配ごとはささいなことでも相談するようにと言われ、相談先などが書いてあるハンドブックをもらった。 午前の語学のクラスでは、先生による簡単な個人面談(tutorial)が行われた。

全体的に、学生に対するサポートは、とても充実しているとの印象を受けた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学は、敷地が「ここからここまで」という風に定まっているわけではなく、町のなかに大学の建物が散在している感じである。

大学の建物、および宿舎 Allen Court では、Wi-Fi が利用できる。

キャンパスの中央部に位置する Information Commons は、24 時間・週 7 日あいていて、1,300 の自習スペース・100,000 冊の本・500 台の PC・70 席のカフェがある。Information Commons のほかにも、複数の図書館があった。

カフェは、大学の建物の多くに内包されていた。Students'Unionの中にも、食堂やカフェが複数あった。 ELTCの近くに、テイクアウト型の Fish and Chips 屋があった。

大学に Sport Sheffield という施設があり、グラウンドなどは ELTC 企画のアクティビティで使用したようだ。宿舎 Allen Court の一階部分にはジムがあり、プールやトレーニングマシンなどがあったが、利用には年会費が必要とのことだった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まずは、海外へ出ること・留学をすることが、とても楽しいと気付いた点である。僕は今まで海外に出たことがなかったし、本プログラムの参加準備も相当面倒だと感じられたので、準備段階で心が折れそうになったこともあった。

しかし、一週目の終わりくらいから、日中の授業やその他日常生活において、「楽しい」と感じる機会が出てきた。シェフィールドの気候・時間感覚、クラスの進行などに徐々に慣れてきて、また他の国から来た学生とも仲良くなったからである。プログラム終了時には、去るのが惜しいと感じるようになっていた。

僕は、一人暮らしを、たった1日でさえもしたことがなかった。自分で食べるものをカスタマイズしたり、洗濯をすることも、初めてであった。一人暮らしという初めてのことを、初めての外国でやってのけるのはとても不安だったが、周りの友達などからの助言ももとに、なんとか乗り越えることができた。

また、初めて海外に出て、地理学のおもしろみを体感することができた。緯度が高いところで日が長いということは、生活してはじめて実感できたことである。そして、12 時間のフライトからは、地球が球体であることを実感することができた。

僕はおそらく、今プログラムの中では最年少だったと思う。18歳そこそこの僕を選んでいただき、早いうちから貴重な体験をさせていただいたことは大変ありがたいことで、感謝の気持ちでいっぱいである。ところで、僕が高校の時にクラスや部活で作ったポロシャツをシェフィールドで着ていたら、高校の先輩(面識なし)が話しかけてくださった。心から嬉しかった。「東大生」になっただけで満足するのではなく、常に「上へ上へ」という意識を先輩と共有しているのは、誇らしかった。

②参加後の予定

IELTS や TOEFL のスコアを伸ばし、さらに長期・上級のプログラムに応募する。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

今後の僕自身にも言えることだが、留学は、大学が発表するプログラムの情報をいかに素早くキャッチ するかが決め手だと思う。普段の勉強もあるなかで大変だが、こまめに情報を入手し、自分に合ったプロ グラムを見つけて、積極的に応募してほしい。

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
 - ○イギリスのガイドブック (イギリス全体の雰囲気を知るほか、通貨事情や緊急通報の番号など、今さら 人にはきけないようなこまめな情報を得た。)
 - ○東京大学のホームページ (Go Global など)
 - ○シェフィールド大学のホームページ
 - ○Google Map(地図を「オフラインで保存」すると、Wi-Fi がないところでも利用できる。)
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

2015年09月15日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):法学部3年

参加プログラム: 2015 第 2 回 国際本部奨学金付き夏季短期留学プログラム派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 3.公務員

5.民間企業(業界:報道)

派遣先大学の概要

シェフィールド大学はイングランド中部に位置し、ラッセルグループに所属する総合大学である。

参加した動機

物心ついてから海外に渡航したことがなかったため、純粋に異文化の世界で暮らすということについての興味があった。その上で、このプログラムでは語学の勉強も、大学の講義も受けることができる点が非常に魅力的だった。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
- はじめに必要な書類、特に語学試験の証明書などがいつまでに必要なのか、それにあわせて受験や書類作成などを前倒しして決めておくとよいと感じた。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) イギリスは入学証明書があれば入国時にビザを発給してもらえるので、その点の心配はいらなかった。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 常備薬は携帯しておくようにした。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学に指定された保険に加入した。また、海外での買い物などに保険が適用されるクレジットカードを新たに入手したりもした。

- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 今回のプログラムは単位習得は認められなかったので、受講予定の授業内容などを提出するにとどまった。
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前は英語に毎日触れるようにした。しかし、自分は渡航直後はコミュニケーションを取るのにかなり苦戦したため、しっかりリスニングの学習を行った方がよいと感じた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 常備薬、洗剤など日用品も荷物に余裕があれば用意しておくと到着直後に慌てずにすむと感じた。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前が語学教室での英語の授業、午後が大学での講義、およびその準備のための時間と講義後に現地のチューターの方とディスカッションを行ったりする時間がもうけられていた。午前中の授業は自分に適したレベルの授業に参加できたため、非常に楽しかった。基本的には会話、あるいは QandA、ミニゲームなどを行っていた。

午後の講義はそれなりに専門的な内容も扱っていたが、講義を受ける前に単語や概念について解説してくださる教授がとても丁寧に導入してくださったおかげで、スムーズに講義に望むことができた。講義の後のディスカッションの時間も、講義の内容について確認するとともに、日本の例に引きつけてのテーマ設定などをしてくださり、大変面白かった。

②学習・研究面でのアドバイス

語学の授業では積極的に発言することを心がけた。もちろん失敗も多かったが、自分の失敗を受けて先生が内容を 膨らませてくれたりもしたので、失敗を恐れずに授業にコミットすることが大切だと思う。

講義後のディスカッションでもがんばって何かを伝えようとした。伝えようとすることを通じて、自分にその力が足りないことを痛感できたので、いい経験になったと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

現地の方はかなり訛り、方言が強く、最後まで聞き取れないこともあった。読解に関しては正直皆そこまで苦労しない と思うので、聞き取りとスピーキングを日本にいるときから重点的にやるのがよいと思う。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 寮はプライバシーが確保されていた上に、共用スペースの使い勝手もかなりよかった。また、大学の近くにあったので、授業に向かう際も苦労しなかった。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) イギリスはかなり物価が高く感じた。多めに現金を持っていくと安心できる。交通機関もやや高めなので、現地での交通手段も早めに確保して割引を使うのがよいと思う。

食事はかなり油こく、ごはんも食べれないので、長期の滞在になるなら日本食をいくつか用意した方がいいだろう。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 治安はシェフィールドはかなりよかったので特に心配することはなかった。 水はよくいわれているように不衛生なので、常にミネラルウォーターを確保しておくとよい。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

二週間の滞在で食費が3万円近く、交通費がかなり高く、空港からシェフィールドまで往復1万円はかかった。自分はそこまで飲み歩いたり、休日に観光にいかなかったが、行くとなると交通費も含め一日一万円は使ってしまうことを覚悟した方がよい。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) プログラム付属で奨学金が存在し JASSO から8万円の支給を受けた。

⑦ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 語学のスクールが様々なアクティビティをもうけており、スポーツ、読書など、いろいろなプログラムに参加することができた。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) かなり充実していた。オリエンテーションの段階から生活・学習面について詳細に説明されるとともに、学生の生活を支援するためにかなりのリソースが割かれていた。
- ② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) どれもきれいで、新しかった。ただ、食事に関してはやや不便(町の中にある大学なので、少し足をのばせば付近の飲食店を利用できたが)

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

本プログラムを通じて、本当に日本と全く異なる風土を持った世界があって、様々な人がそこに暮らしているということを痛感できた。

また、現地で様々な人々に出会えたこともまた貴重な経験になった。

一方で、授業や講義、現地の人との会話を通じて、自分の英語力の未熟さを痛感した。自分の考えを伝えること、また相手の意味するところをきちんと汲み取ることはとても難しく、もっと修練が必要だと感じた。

③ 参加後の予定

秋学期終了後にまた海外に訪れることができればよいと思う。在学中は難しくとも、社会にでてからまた再度、今度は長期で留学にいってみたい。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

特に海外にいったことがない学生こそ、まずは一度世界・異文化を感じてみることをおすすめします。自分の中の好奇心、新しいものに触れる喜びを強く感じるよい機会になり、それはどんな道に進もうとも大事なことになってくるでしょう。

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

2015年8月22日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部文科二類

参加プログラム:シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学:シェフィールド大学(イギリス)

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シェフィールド大学。ロンドンからバスで4~5時間のところにあるシェフィールドにあります。 ノーベル賞受賞者を多数輩出しており、何十もの日本の大学と交流があるそうです。

参加した動機

高校生のころから留学はしてみたいと考えていたからです。

イギリスで本場のイギリス英語が聞けることが魅力的で応募しました。

二週間という期間の短さのおかげで応募に躊躇することも無かったです。(今ではもっと長く滞在したかったと思っています。)

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

パスポートの取得・更新と IELTS,TOEFL のスコア獲得は四月までに終わらせておくと焦らなくて良いです。(私は試験を五月に受けたのでバタバタしました。)

提出書類が多く、提出期限もそれぞれ違うのでそれは気をつけるべきです。

- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 現地の入国時にシェフィールド大学からの書類を見せればビザは取得可能です。書類さえ現地に忘れず持参すれば 事前準備は不要です。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) ありません。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) OSSMA という留学生危機管理サービスと大学を通し海外旅行損害保険に加入しました。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)ありません。(追試や留学期間中に試験が無かったので何もしなくて大丈夫でした。)
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英検準一級、TOEFL 89

時間が無かったので試験対策も出来ず、出発前も特に何もしていないです。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ドライヤー。コインランドリーの登録がとても面倒でやる気が起きず手洗いしていました。そのためのハンガーと手洗い用洗剤はあると便利です。私は留学先でも進学振り分け関連の情報を得るためにポケットWiーFiを持参しました。 気温が変わりやすいのでストールは便利でした。 変圧器は不要です。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中はほとんどテキストの問題に沿ったディスカッション(例えば、"What do you think about this man? Talk with your friends.")。堅苦しいものではなく「とりあえずどんどん英語を話そう!」という感じです。幸い最上位クラスでしたので、クラスメートが積極的で始めは圧倒されましたが、先生が発言の機会を与えてくださるなど、先生の目は行き届いています。

午後は全編英語の講義が 60 分とそれに付随する、予習と復習の為の授業が 45 分ずつあります。講義はひたすら聴いてメモをとり、予習復習の授業は講義のテーマについて TA に説明するなどほとんどがグループごとのディスカッションです。

② 学習・研究面でのアドバイス アカデミックな知識はいりませんでした。 ③ 語学面での苦労・アドバイス等

とにかく意識して自分の意見を英語で言おうとすることが大切だと思います。私は先生方に「もっと話さないと!」と言われたことがありました。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮です。大学が探して決めてくれたので生徒の私たちは何もしていません。

Allen Court という寮で、トイレが流れにくいということはありましたが、広くて綺麗でセキュリティも厳重です。トイレとバスは部屋にあり、キッチンのみ 6 人で共同です。大学まで徒歩5分で、近くに Sainsbury's や Tesco Express というスーパーがあります。

- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 涼しかったです。毎日 20°Cくらいです。大学の周りはスーパー、レストラン、パブが充実しており食事には困りません でした。お金は 7 万円分のポンド、あとはクレジットカードを三枚持っていきました。物価がすごく高いので、10 万円く らいは使うと思います。(お土産や雑費すべて込みで)
- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 夜は絶対に一人歩きせず、5人くらいで行動していました。治安はいい方ですが、滞在中に女子留学生が事件に巻き 込まれるということがあったので女子は一人では歩いてはだめかと思います。

医療機関にはかかりませんでした。持参した薬も特に使っていません。もし困ったらシェフィールド大学のスタッフに相談したらいいと思います。

- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空賃25万円くらい、プログラム費用(授業料・家賃)24万円くらい、食費・交通費・娯楽費合わせて7万円
- ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) JASSO から8万円頂きました。
- ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 大学の留学生支援課のようなグループの主催するバドミントン・ヨガに参加したり、午前中のクラスで(日本人以外も含めた皆で)パブに行ったり、街を散歩したりしました。土日と授業が午前で終わる日は Chester, York, Bakewell に日帰り旅行しました。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 優れていると思います。
- ② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 利用していませんが、良く整備されていて便利そうでした。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 英語を話すことに抵抗が無くなりました。それが一番の収穫です。授業中はもちろん、ランチタイムも放課後も休日も 英語を使っていました。相手が東大生でも英語で会話する様に意識していたのもすごく良かったのだと思います。

私は自分の意見を言うことが苦手でしたが、発言してみる→先生や皆に受け入れられ評価される→自信に繋がる→ 発言に抵抗が無くなるという良い循環を体験しました。

授業以外に友人と遊びに行ったりイギリス観光が出来たりしたのもとても良い体験でした。(お互いの母国語を教えあったり、英語で雑談をしたり、旅先で予期せぬトラブルに遭ってそれを乗り越えるのが貴重なことだと思いました。)

② 参加後の予定

三年夏から交換留学に行くか、もう少し長めの短期留学に行きたいと考えています。 四年で卒業した後は就職を希望しています。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス 二週間は短いですが、極力英語を使うようにするなど努力次第で得る

二週間は短いですが、極力英語を使うようにするなど努力次第で得られるものはいくらでも増えます。 また、寮で皆と暮らすこと、放課後毎日遊んだりスポーツしたり出来るのは楽しいです。

私は行ってみてすごく良かったと感じています。是非トライしてみることをお勧めします。

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

2015年 8月18日

東京大学での所属学部/研究科·学年(プログラム開始時): 工学部 システム創成学科 PSI コース 3年

参加プログラム: シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

(5)民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イギリス北部、シェフィールドにある大学

参加した動機

とにかく海外に行って勉強してみたい気持ちが強かった。ただ、英語力や経験には自信がなかったため、このプログラムを選んだ。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
- 書類作りは早めに。航空券のチケットや、前泊、後泊のホテル、さらに電車のチケットなど、早く予約すればするほど安くなるものがあるので、早めに手配する。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) Student short term visa 手続きは、受け入れ証明書を見せればそれでオッケーでした。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) とくになし。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) OSSMA 等、必須のものにのみ加入
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)なし
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 所属学科の性質上、一年近く英語に触れていない状況でいきました。
- ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなどカップ麺とかあったら便利かと思います。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

英語の授業は、内容は中高の英会話みたいな感じ。ただ、様々な国から来た年齢も別々の人たちと、とても真剣にとりくむので、楽しいだけでなくためになる。

レクチャーは、ある内容についてその筋の教授が 1 時間の授業をしてくれる。英語なのに日本語で話している東大の 教授より断然面白く、わかりやすいので楽しいです。

② 学習・研究面でのアドバイス

楽しむこと。真面目になりすぎずに。一番の目的は外人と英語で会話することなんだ!とおもってたくさん会話をしたり話しかけたりしましょう。

③ 語学面での苦労・アドバイス等 特になし

生活について

- ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) Allen Court 一つのフラットに 6 部屋あって、運がいいと他の国(アジア系がほとんど)と同じに。運が悪いと、東大生だけのつまらないフラットに。
- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 現金は多少大目に持って行ったほうがいいです。クレジットカードが使えるところも多いのですが、いくら以上買わない

と使えない、だったり、大人数で食事をしたときに現金が必要だったり、と、案外よく使います。自分は、2週間で 100 ポンド持っていきましたが足りず、結局銀行からおろしてトータル 150 ポンドほどでした。

- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 特になし。安全な国でした。
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空費 15 万ほど
- ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) なし
- ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 毎日、何らかのアクティビティーがあり、サッカーやバドミントン、インターナショナルパーティー等がありました。週末は とにかくいろいろな場所に行きました。マンチェスターやチェスター、ロンドンに行っている人もいました。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 先生の英語はとても分かりやすく、心配いりません。
- ② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) Wi-Fi は、校舎、宿舎ともに申し分ありませんでした。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

日常生活、普段の授業では割と受動的な性格で、積極的に話しかけたり発言したりということが少なかったのですが、このプログラムに参加して、というより海外で多少なりとも勉強してみて、もっと自分に自信を持つことが必要だと強く感じた。

レクチャーは、専門的な内容というわけではないが、とても興味がそそられる内容で、自分は新振りを決めてしまった後だったが、一年生などは新振りにも良い影響があるのではないかと感じた。

② 参加後の予定

特になし

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

二週間、本当にあっという間なので、本当に二週間でいいのか、もっと長期じゃなくていいのかよく考えた方がいいと思います。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

なし

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

なし

2015年 8月26日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 理学部3年

参加プログラム: 2015 年第 2 回国際本部奨学金付き夏季短期プログラム 派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ① 研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シェフィールド大学は広く様々な分野で活躍する総合大学で、理系では主に工学でリードする存在。アジア系の学生も滞在中よく見られたので、多くの留学生を受け入れている雰囲気があった。

参加した動機

交換留学を控えていたため、語学力の向上と海外生活への慣れを目的として参加しました。またイギリスは今まで訪れたことが無かったので、どのような国なのか、またイギリスの大学ではどのような学習や研究が行われているのかに興味があったのも動機の一つです。

参加の準備

- (1)プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
- 基本的には指示に従って締め切り日に間に合うようにすれば大丈夫だと思います。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 今回ビザは Short-term student Visa を入国審査時に取得しました。入学許可書とパスポートを提示すれば OK だったので、審査官によると思いますがそこまで不安になる必要はないと思います。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特にしませんでした。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 付帯海学に加入して、特にその他の留学保険には入りませんでした。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 学部に海外渡航届を提出しましたが、授業や試験とは被らなかったので簡単でした。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

交換留学に向けてある程度語学の勉強はしていたので、直前にこれといってしたことは無いです。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 学習面では辞書を持って行った方が良いと思います。授業や生活でも役立ちます。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

初日のテストの結果に基づいて午前中はレベル別の語学の授業を受けました。自分は一番上のクラスに入ったので周りのレベルが高く非常に充実した授業となりました。そこまで課題は出ないで語学力をあげたいなら授業で積極的に発言したりその他自分で色々見つけてやるといいと思います。午後は講義ですが、その補助となる preparatory seminar と follow-up seminar の助けもあって理解しやすく、内容もただの授業というより interactive なものが多かったので受講していて楽しかったです。 講義してくれる先生はたまに話すのが速い時があるので、そういう時は follow-up セミナーで TA に質問するなどして補完すればより充実すると思います。 こちらも予習復習の課題はありますが、それほど時間はとられないと思います。

②学習・研究面でのアドバイス

講義の内容が専門的な知識がないと少しわかりづらいといった時もあったので、あらかじめ少し自分でも背景知識などを前日の夜などに着けておくとよりわかりやすい講義になるのではと思います。

③語学面での苦労・アドバイス等

午前の語学のクラスでは他の留学生も多くいるので、彼らと授業以外の生活面のことでも何でもいいので話すとより上達すると思います。語学の先生にも言われましたが、このプログラムは 2 週間しかないので少しでも多く英語をしゃべる時間を増やすことが重要だと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

もともとこのプログラムでは宿泊先が決まっていたので探す必要はありませんでした。Allen Court という寮ですが、一人部屋でトイレ・シャワー付きなのでかなり快適でした。談話室にはキッチンもあるので食事もそこでとれます。Wi-Fiも完備されていました。洗濯する際の料金が高いので、服は多めに持ってきて選択回数を減らした方がいいと思います。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 真夏ですが日本と比べると肌寒く感じる日も多かったです。20℃前後なので長袖が無いときつい日もあります。寮は 大学のすぐ近くなのでスーパーも近く便利です。やたらと早く店が閉まるのには注意です。バスや路面電車、電車と交 通機関は充実しています。食事は料理するのも手間だったので基本的に外で食べるか買ってくるかといった風でした。朝食はパンなどで済ませました。2週間だけなので現金5万円相当とクレジットカードで向かいましたが、物価が 高いので現金は不足気味でした。

- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 治安はそこまで悪くないと思います。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空券は往復10万、プログラム費(宿泊費含)で17万程度、現地での交通費は2万強(London-Seffield が高い)、 食費も含めその他で5万くらいだと思います。
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) JASSOの8万円奨学金付きプログラムだったので、それを受給させていただきました。
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 夕方や週末は基本的に自由時間なので、友人と夕飯を食べに行ったり、近くにある都市(York など)に小旅行をして楽しんでいました。ELTC の企画でスポーツやパーティも開かれ、様々な留学生と出会えるので行ってみると面白いと思います。

派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 滞在中特に困ったこともなかったので誰かにサポートしてもらうといったことはありませんでした。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は何個もあって充実していました。実際に入ってみても様々な蔵書が取り揃えられていて一度入ってみるのも面白いと思います。食堂といえるものはあまりなく、スーパーなどで買って食べるのが中心でした。PC も設置されているものを使うことができて不自由はありませんでした。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

自分の中では交換留学に向けた準備段階としてこのプログラムを位置づけていましたが、参加してみてそれ以上の価値があったと感じました。海外の大学に行ったのはこれが初めてで、日本の大学とは雰囲気も研究内容も大きく異なっていて特に学習面に関しては新たな知見を得ることもできました。午前中の語学の授業ではとにかくしゃべるということに徹して、英会話の力を伸ばすことはできました。この短期間で文法や語彙を劇的に伸ばすというのは無理なので授業以外にも他の留学生と会話するなどして会話を意識しました。精神面では、到着した当初は右も左もわからず困惑していましたが、最後の方は店員との会話も緊張することなくスムーズにできるようになったので成長はあったかなと感じました。

②参加後の予定

全学交換留学をしてその後は4年になり卒業する予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

このプログラムは2週間と短いものですが、海外が初めてといった人でも気負いせず参加できるものだと思います。 特に将来留学を考えている人はそのファーストステップとして参加して海外の大学での生活や勉強がどういったもの か知ることは大事だと思います。語学力がそこまではっきりと上達する、というところまで持っていくのは少し厳しいと 思いますが、話す機会は大量にあるのでスピーキングの面でかなりブラッシュアップされると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東大の留学情報サイトと説明会のときに受取った資料で十分でした。

2015年8月22日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部 文科一類 1年

参加プログラム: シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 ②.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シェフィールド大学:イギリス中部にある大学。ロンドンから北に高速鉄道で2時間半にある学園都市シェフィールドの中心をなす大学。英語教育に特化した ELTC を擁しアジア各国から英語を学びに留学生が集まっている。

参加した動機

近い将来の 1 年以上の比較的長期の留学に備えるためのステップとなることを期待して。また、長期休暇を長期休暇でないと体験できないことをして過ごしたかったため。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 提出書類の締め切りなどを守って、言われた通りに行えば何の問題もない。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) イギリスの短期留学ビザだったため事前手続きなどは不要。観光ビザと同様に入国審査を行うだけだが、その際に入 国審査官に申告して短期留学用のビザのハンコをもらうだけでよかった。ここで、観光ビザを誤ってもらわないように 注意する。 意外とすぐに終わる。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特になし。頭痛薬とアレルギー薬を持参したことぐらい。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 学校から加入を求められる海外旅行保険で十分だったように思う。行き帰りのフライトも保険対象に含まれているので、特に追加で保険に加入する必要はない。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)特になし。
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) TOEFL の点数をすでに持っていたため、特に語学面での準備はしなかった。
- ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 特になし。必要なものは現地調達すればよい。帰りにはお土産などで荷物は増えるので、荷物が多くならないようにな るべく持っていくものは少ないほうが良い。ただし、事前に現地の天候、気温などの情報を入手し、それに見合った服 装を準備すべき。イギリスは、真夏でも寒いくらいで長袖が必要だった。

学習・研究について

- ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)
- 午前中が英語のレッスン、午後が大学の教授による短い授業とディスカッションおよびフォローアップ授業。予習復習は特になし。

英語の授業を聞いてノートを取り、ディスカッションを行うスタイルは日本では珍しくなかなかない機会なので、将来の留学のためのよい準備になったと思う。

② 学習・研究面でのアドバイス

積極的に自分から話すこと。こっちから話すと、向こうから期待した以上のフィードバックを得ることができ、学ぶ量も 増える。逆に黙っていては、講義の時間も長くはないので、得られるものは少ない。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

特になし。文法は崩れても、積極的に話すべき。

生活について

- ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 学校の近くの寮。大学側で手配してもらえた。
- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 気候:想像していたより寒い。長袖必須。 大学周辺:想像以上に何もない。いわゆる、田舎町、といった感じ。 交通機関:バスとトラム。(車内で車掌に運賃を直接払う原始的な方式。) 食事:物価が高いので

外食すると、安い店でも日本円で 1000 円は超える。種類は限られるが、口に合わないことはない。また、量が多い。 お金:どこでもクレジットカードが使える。現金払いしかできないのはタクシーのみ。また、まれに 3 ポンド以上じゃない とクレジットカードはダメ、現金払いのみ、という飲食店がある。

- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) シェフィールドの治安は良好。緯度が高いイギリスは、夏は夜 10 時過ぎまで明るいので、その分、夜遅くまで昼間と同様、治安が良い。深夜も、そこまで治安が悪化するような印象は受けなかった。ロンドンの都市部も同様。
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空運賃(ドバイ経由):20 万円 生活費、食費、イギリス国内交通費など:15 万円(ロンドン⇔シェフィールド往復 £74) 授業料:17.5 万円(宿泊費込)
- ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
 Jasso から八万円、支給していただきました。プログラム自体が、奨学金付プログラムであった。
- ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 週末にロンドンに一泊二日で観光。また、二週間と短い期間であったため、夕食は毎晩外食した。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 充実しているようだった。自分たちは2週間と短かったため、特別にサポートを受けたことはなかったが、案内や説明
- 光美しているようだった。自分だちは2週旬と短かったため、特別にサポートを受けたことはなかったが、条内や説明 の内容を鑑みると、トラブルに遭遇した場合などのサポート体制もしっかりしているようだったため、安心することはで きた。
- ② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 東大駒場キャンパスなどと同じような規模で、設備もほとんど同様で過ごしやすく使いやすかった。二週間と短期であったことや、大学自体が夏季長期休業中で多くの設備が閉館していたため、普段はより充実していると思われる。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

イギリスは先進国であるが、それでも、日本がいかに先進的で恵まれた国かがよくわかる。特に、東京の便利な生活に慣れきてしまっている自分にとって、異国の田舎町での生活は新鮮であった。また、海外の大学のプログラムに参加してはじめて分かったのは、東大の学生がいかに優秀で、東大がいかに素晴らしい大学であるか、ということであった。また、世界各国の人々との交流を通して、日本人として東京で生まれ育ったことが如何に誇れることであるか、を学ぶことができた。

また、英語でのコミュニケーションについても、ELTC のスタッフをしている学生をはじめ、街の人々に至るまで、こちらからの問いかけ、話しかけに明るく応じてくれる人たちばかりであったため、会話力に自信を持つことができた。

一方で、二週間という期間の短さも痛感した。英語だけを使う生活にちょうど慣れてきたところで帰り支度を始めなければならなかったため、物足りなさも大きかった。こうした面も含め、将来の長期の留学への大きなモチベーションとなった。

③ 参加後の予定

全学交換留学に応募しようと考えている。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

少しコストはかかりますが、将来の留学へのよいステップとなるでしょう。将来、留学を考えている人はぜひ行ってみるべきだと思います。言語面でもそうかもしれませんが、留学した際の生活面についても勉強になります。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。経路検索も Google が一番良い。

2015年 8月 28日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部理科三類・2年

参加プログラム:シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シェフィールド大学は英国第4の都市シェフィールドの中心に位置し、町に点在するキャンパスが小さな学園都市を形成しています。周辺には公園や庭園が多く緑あふれる街となっており、学業をするに素晴らしい環境にある大学です。

参加した動機

本プログラムは将来的に英語圏への留学、進学を考えている学生を対象にしたもので、来年以降の英国留学を考え英語を集中的に学ぼうとしていた私に適したプログラムと考え参加しました。午後に開かれたレクチャーのテーマも大変興味深いもので、特に医学部へ進学する私にとって解剖学の講義があるのは魅力でした。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きは早め早めにしておくこと、特にメールで手続きの詳細が送られてきた際にはなるべく早く書類作成等済ませてしまうとよいです。今回は手続きに関するメールが何件かに分かれて送られてきたので、後回しにしてしまうとどこかに抜けが出てきてしまうものと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザは入国審査時に取得できるものでよいので事前の取得は必要ありませんでしたし、ビザ取得に必要と言われて いた書類は多かったものの実際はパスポート、航空券、大学からの受け入れ許可証のみで取得できました。ですが、 入国審査で厳しい対応をされたという方もいらしたようですので、書類等の準備は怠らない方がよいように思います。

- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特にしておりません。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 大学から提示されたものに加入しました。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 教養学部は夏季休業中でしたので特別な手続きは必要ありませんでした。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発前は IELTS の overall が 6.5 でしたが、項目別では reading, listening ができて writing, speaking ができないという典型的な日本人タイプでした。出発前には英語を話せなければやっていけないと思い、英会話関係の本を 2 冊読み、飛行機の中ではスラングの本を読んだりしました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

宿舎には殆ど何もないので所謂生活必需品一式。但し向こうのスーパーで大抵揃えられるので多く持って行く必要はありません。出発前にはリスニングを。それからイギリスの食品、食事に関する単語を覚えていくとレストランでの注文に困りません。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

本プログラムでは午前中に ELTC という英語学習センターで英語のクラスを受け、午後は理系文系に分かれて英語での講義を受ける、といった形でした。午前中の英語のクラスでは教科書をベースにディスカッションを中心に進められていったので、自分が話す機会も自然多くなりよいスピーキングの訓練の場になりました。一番上のクラスに入ったので周りの学生のレベルも高く、刺激を受けられました。特に予習の必要はなく、宿題も殆どありませんでしたが、一つwritingの課題(200 word 程度)を出されました。午後のレクチャーは時間の制約もありあまり内容の濃いものではなかったのですが、話題自体は面白いものでした。講義の前後のセミナーは、英語の講義を理解するためのもの、と言った感じで内容自体を深めていくものではありませんでしたが、ここでも英語を話す機会が多く持たれたのはよかったと思います。講義後課題が出されるものもありましたが、1時間もかからないくらいのものでした。

②学習・研究面でのアドバイス

英語のクラスでも午後の講義でも、自分が話す機会はある程度回ってはきますが、やはり自分から積極的に発言していくことでそれらをより有意義なものにできると思います。

③語学面での苦労・アドバイス等

自分のことや日本のことを英語で伝えられるようにしておくと英語クラスでの会話が弾むと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学寮に宿泊しました。家賃はプログラム費用に込みで、きれいでそれなりに広い部屋でしたが、生活必需品は殆ど何もなく、持って行くか現地で買うかの対応を求められました。また共同部屋にあるはずの食器や調理器具が何もなく、受付に行っても事前の手続きがいるとのことでなかなか対応してもらえず最初の数日は非常に困りました。手違いがなければ食事関係の器具で困ることは無いかと思います。ランドリーもありましたが非常に高いです。1 回 1000 円程。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

非常に過ごしやすい気候です。暑かったり寒かったりすることはありませんでした。大学周辺は緑が多く心地よいものでしたが、坂が少し多いように感じました。バス停やトラムの駅も近くにあり、移動はしやすいものと思います。中心街まで徒歩で行くことができ、そこに手ごろなレストランなどが多くありました。思ったよりも食事は悪いものではありません。寧ろ安くておいしいものは多くあったかと思います。支払は現金中心でした。2週間でしたら300ポンドあれば暮らせると思います。いつも40ポンドほどとカードを持ち歩いて、そのほかの現金は宿舎においていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はよい方だと思います。夜間外出も大通りを行けば危なくはないでしょう。医療機関は分かりませんが、薬品は日本より安価で容易に手に入ると思います。食品には気を付けていましたが、生魚を食べた方々も無事に生きていたので大抵は大丈夫でしょう。

- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空券往復 12 万円、参加費 869 ポンド、生活費、娯楽費 400 ポンド程度
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) 大学からの奨学金8万円、奨学金付きのプログラムでした。
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

放課後にはバスケットボールやバドミントンなどのアクティビティが催され、良い交流の場でありました。参加者のほとんどは中国人でしたが。週末には大学主催の旅行でチェスターに行ったり、一人でウェールズまで行って登山したりしました。コーチや鉄道を使うと週末には様々なところへ行けるかと思います。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

生活面での積極的なサポートはあまり無いように思いましたが、学習面ではレベル相応に対応してくれたのでやりやすかったように感じます。利用はしませんでしたが生活や健康に関して相談できる部門がしっかり用意されているらしいです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は学生証で入館できます。蔵書は充実していました。Wifi は寮と大学構内で使えました。大きな食堂はありませんが、お店はそれなりにあります。スポーツ施設はやや遠いところにあり気軽には利用できないかな。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

本留学を通しての目標は英語での発信力の強化でしたが、この点は2週間でかなり成長できたのではないかと思われます。特に語彙が増えたり文法が身に着いたりしたわけではないですが、英語をアウトプットする際の抵抗感のようなものが格段に薄れ、話したときにしっかり考えが伝わっているという実感を持つことができました。また今回の留学で、一人で海外へ向かうということに関して一通りのことができるようになったと思います。これは今後の留学や海外での研究をプランニングする上で生きてくることだと思います。

その他収穫として今後何をすべきか明らかになったことがあります。まずリスニングカの強化。自分は国内でも英語でのレクチャーを受けたことがありましたしリスニングでそう問題になることは無いかと思っていましたが、日常会話ではなかなか一回で聞き取ることができず、適当に返事をして失敗したこともありました。これに関係して、まだまだ語彙が足りないという感じを受けました。単語を知らなければ聞き取れるはずがありませんし、話すこともできませんから、特に日常的に使う表現について学習をしていかなければならないと思いました。

②参加後の予定

来年に再度英国留学を考えているので、専門の勉強に並行して英語学習、特に語彙増強を続けていくと共に、日常的な会話のリスニングも強化していきたいと考えています。次回は語学留学ではなく専門につながる留学を考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

このプログラムに限らず留学を通して何を学びたいのかはっきり意識して海を渡ること、やりたいと思ったことなら多少のリスクはあっても飛び込んでみること、プログラム自体ではなく事前事後の学習が成長につながるということ、出来れば一人で行動してみること、が大事ではないでしょうか。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

http://www.bbc.co.uk/programmes/b006v5tb

bbc breakfast の clips は適度な長さのリスニングによいかと。

2015年8月27日

)

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):薬学部薬科学科 4 年

参加プログラム:シェフィールド大学サマープログラム

派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:製薬系、化学系) 6.起業 7.その他(

派遣先大学の概要

シェフィールド大学はイギリスのロンドンから鉄道で2時間半ほどの距離に位置する大学。シェフィールド市はイギリス第4の都市らしく、緑豊かで治安もよい都市。同大学は留学生を積極的に迎え入れているようで、大学構内でも様々な国からの学生を見かけた。

参加した動機

英語の能力、特にスピーキング能力を向上させようと思い応募した。留学等には今まで興味こそあったものの部活動のため時間がなかったが、4年生になり夏休みを利用して参加しようと思った。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際交流課や派遣先からの指示に従い、締切日にさえ気をつければ特に問題なく進められるように思う。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

短期学生ビザということで事前の申請は特に必要なかった。派遣先大学からの受け入れ証明書等を見せると、入国審査官がその場でビザのスタンプを押してくれた。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

何もしなかったが、プログラム終了後のヨーロッパ旅行中に歯が痛くなって苦しい思いをしたので、やはり事前に健康 診断や歯科検診を受けておいた方がいいと感じた。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

国際交流課指定の、学研災付帯海外留学保険に加入した。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

研究室の教授に許可を請うたぐらいで特に何もなかった。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

このプログラムはTOEICのスコアを提出できたので、以前受けていたTOEICのスコアを提出し、今回のプログラムのために TOEFL を受けたりはしなかった。出発前には、数か月前からオンラインの英会話レッスンを受けたり TOEFL の問題集を解いたりして英語学習に努めた。プログラム初日にクラス分け用のリスニングとリーディングのテストがあるのでできるだけ勉強しておいて、よりレベルの高いクラスに入れるとより実りの大きい留学になると思う。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

気候が同じ時期の日本とは異なるので、事前に調べて現地の気温に適した服装を持っていくとよい。また、自分が滞在した寮はトイレットペーパーやシャンプーなどは一切なかった。現地のスーパーで調達すればよいと思うが、夜遅く到着予定で買いに行けなさそうな場合や着いた直後の分のためにある程度持っていくといいかもしれない。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は他大学や他国からの学生と一緒に英語の授業を受けた。自分が参加した期間は韓国人が多く、日本の他大学からの学生や一部欧米の学生がいた。プログラム初日のテストでこの英語の授業のクラス分けが行われ、クラスによって授業内容が異なるようである。1 クラス 10 人強で、テキストや音声教材を使いつつ、グループワークやポスター発表などもあった。

午後は東大のプログラム用に用意されたレクチャーを理系と文系に分かれて受けた(故に受講者は全員東大生)。2 週間で全 5 回のレクチャーをシェフィールド大学の教授から受け、専門分野の導入的講義を英語で聴講した。各レクチャーには予習用講義と復習用講義がセットになっており、背景知識の確認からグループごとのディスカッションなども行った。宿題としてレクチャー用の単語の確認や簡単なライティングが出された。

②学習・研究面でのアドバイス

積極的に発言するかどうかで授業の充実度が変わってくる。日本ではただ聞くだけの授業が多いが、こうしたプログラムに参加したら授業中の問いかけに答えたり、コメントをはさんだり、質問したりと意識的に英語を話していくといいと思う。

③語学面での苦労・アドバイス等

サマープログラムということもあり、現地学生(特にネイティブスピーカー)との交流は限定的であった。しかしながら、自分たちと同じようにサマープログラムに参加している他国の学生とは、一緒に授業を受けたり午後のアクティビティでスポーツをしたりと多くの交流があった。こうした交流に積極的に参加したりクラスの生徒と食事に行ったりすると、英語を使う機会が増えておすすめである。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

クラスまで歩いて10分足らずの位置にあるAllen Courtという寮(食事なし)に滞在した。この寮はプログラムに付随しており特に自分で探す必要もなく、宿泊費もプログラム費に含まれていた。6部屋(それぞれ一人部屋)で1フラットで、フラットごとにキッチンやダイニングがあり、実に快適であった。無料でWifiも使えた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

最高気温は20°Cくらいで日本の秋のイメージ。昼は半袖でも過ごせるが朝晩や天気が悪い日は冷えるので長袖や上着等が必要。夏は日が長く、21時を回っても薄明るい。

クレジットカードは大学構内やスーパーを始めどこでも不自由なく使えた。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

シェフィールドはヨーロッパの中でもかなり治安の良い都市らしく、滞在中も身の危険を感じるようなことは何もなかった。体調面では、一度風邪気味になり念のため、日本から持参した風邪薬を服用したことが一度あった。もしものために胃腸薬や風邪薬は持っていくことをおすすめする。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費は往復約16万円、ロンドンと大学間の移動費(バス)が往復1万円弱。プログラム費(宿泊費込)はシェフィールド大学の好意で免除。食費やお土産代、週末に行った近郊への旅費など現地で使ったお金は2~3万円。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

奨学金付きのプログラムのため、プログラム申請と同時に奨学金も申請した。プログラム要綱に付して奨学金についても記されているのでそれに従って申請し、8万円を受給した。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

午後の授業終了後はほぼ毎日アクティビティがあり、バトミントンやバスケなどのスポーツやアフタヌーンティを通して他学生と交流する機会が用意されていた。週末には近くの都市へのバス旅行にも参加できた。個人的にパブに行ったり、近くの街に電車で旅行に行ったりもした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

午後の東大用の授業では、東大生10人に対して3人の TA がついてディスカッションのサポートなどをしてくれる。それ以外にも、授業の先生やスタッフも丁寧に接してくれるので何か問題が起きてもきちんと対応してくれるであろう。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

プログラム中は学生証が配布されて、図書館やPCが自由に利用できた。また、寮や大学構内では無料でwifiも利用できた。日本の大学における食堂のようなものは見られなかったが、あちこちに売店やスーパーがあり、食事を準備するのに特に不便はなかった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今回が短いながらも初めての留学であったが、学習面でもその他の面でも学ぶことが多かった。

たった2週間で語学力が伸びるわけがないという声も多いと思うが、日本で漫然と過ごすのに比べれば英語に触れる機会は格段に増えるし、また世界の学生と一緒に授業を受けることは大きなモチベーションを生み、今までの英語学習の仕方や自分の弱点、これからの学習計画について考える大変よい材料になるので"たった2週間"ではないと確信した。

自身の英語力に関して感じたこととして、スピーキング能力を最も向上させたいと出国前は考えていたが、実際に現地で留学する中でそれ以前にリスニング力が大変重要であることを感じた。相手の話すことが聞き取れないと会話が成り立たないし、非ネイティブの学生と話す機会も多かったので強固なリスニング力が必要だと改めて感じた。

しかしながら、他国の学生と交流するという初めての経験は楽しく、再び留学したり世界で仕事をしたりしたいという気持ちにつながった。また、一緒に東大から参加した学生も留学などに興味がある学生ばかりで彼らとの交流も刺激になった。

②参加後の予定

特に留学等の予定はないが、これからもこうしたプログラムに積極的に参加したいと考えている。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学は学生のうち、特に時間に余裕のある低学年のうちにでないとなかなかできないと思うので興味があるなら積極的に自分で調べて参加すると良い。サマープログラムなどは期間が短く、費用面、精神面からも参加しやすいと思うので留学の敷居が高く感じている人も応募してみることをおすすめする。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にない。

2015年 8月 27日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 文学部3年

参加プログラム: シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他(

派遣先大学の概要

将来的な長期の留学に関心があり海外の大学に滞在してみたかったこと、関連して英語力の向上を図りたかったこと、加えてプログラムとしては語学中心ながら自分の関心がある内容の講義も行なわれることから応募した。

参加した動機

将来的な長期の留学に関心があり欧米の大学に滞在してみたかったこと、関連して英語力の向上を図りたかったこと、加えてプログラムとしては語学中心ながら自分の関心がある内容の講義も行なわれることから応募した。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)提出書類が多いので、期日ごとに漏れのないように気をつける。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 入国審査の際に通常のビザに代わり Short-term student visa を発行してもらえるよう申し出る必要がある。受入承 諾書を提示し、簡単な質問に答えればよかった。学ぶ分野や期間を訊かれた。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 腹痛に対処する薬を購入して持参した。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

プログラムに参加する上で加入の義務があった付帯海学および OSSMA に加入した。クレジットカードにも保険が自動付帯していた。

- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 学部に留学許可願を提出する必要があった。所属先の主任教員および学科長の認印を得た上で提出するので、早めにコンタクトを取ってお願いをした。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

何らかの留学プログラムに応募することを考えて、申し込み以前に IELTS を受験していた。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 可能なら日本の菓子や粉末の茶などを持っていくと他の学生との交流に役立つかもしれない。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

ELTC という語学学習センターのプログラムのひとつになっている。午前中は他のプログラムからの参加者や個人の参加者と合同で、各 16 人程度のレベル別クラスに分かれて授業を受ける。全体としては韓国からの学生と(他大学の同様のプログラムからの学生を含む)日本からの学生が多かった印象だが、クラス単位では分散していたように思う。午後は東大のプログラム用に、本プログラム参加者のみの講義が行なわれ、各講義に予習のコマと復習のコマがついた。講義は5つなので、期間中午後に関しては1コマのみの日や講義がない日も少なくないため、ある程度は活動に余裕がある。

- ②学習・研究面でのアドバイス 課題がときどき出るので、忘れずにやる。
- ③語学面での苦労・アドバイス等

単に努めて英語を話すというより、積極的に(英語で)コミュニケーションを取るということが非常に重要だと感じた。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

プログラムで手配されていた Allen Court という寮に宿泊することができた。シャワー・トイレ付きの個室 8 室程度と 共有のキッチンと談話室をまとめて 1 フラットになっているタイプの施設だった。 清潔で立地もよく快適だった。 ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 気候については、過去の体験記に寒いという感想と暑いという感想があり、持っていく衣服で悩んだが、今年の個人的な感覚としては気温は東京の盛秋ほどという印象だった。ただ寒暖の差もあり、半袖の T シャツと薄手の上着で過ごして昼は若干暑く、夜は若干寒いということが多かった。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

17 時を過ぎるとまだ明るくてもパブ周辺を除き街からかなり人が減るので、若干不安になる(注意も必要だろう)。人がいない時間帯は、東京でもあることだが、財布をなくしたなどの理由をつけて少額のお金を貸してほしいと声をかけられることもあった。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

事前にかかったのはプログラム費 869 ポンドおよび航空賃。現地の物価は日本に比べると高い(特に飲食)。期間中の食費、交通費、また娯楽費を含むその他雑費にはそれぞれ1万~数万円かかった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO から奨学金8万円(プログラムの紹介に記載されているもの)の支給を受けることができた。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

ELTC の主催でほぼ毎日なんらかの活動(自由参加)があり、サッカーやお茶会などが開催されていた。週末はリヴァプールやヨークなどへの自由行動ツアー(バスを出してくれるため格安で行ける)があり、これに参加してよい体験になった。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

午前の授業の先生は非常にフレンドリーかつ適切に指導をしてくれた。午後の講義は全体統括と予習・復習コマを担当してくれる教授がいる。予習・復習のディスカッションのコマでは加えて学生チューターがついてサポートにあたってくれる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学構内は eduroam が入っており、初日に配布されるアカウントで利用できる。東大の eduroam アカウントも利用できた。ELTC や Information Commons という図書館・コンピュータ棟などで 1 枚£0.05 で印刷が可能。学生証にクレジットをチャージする方式で、学生証に£2 のクレジットが最初に入っていた。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

プログラムに参加する上での目的は、一義的には語学力の向上であったが、語学力と言っても単に単語や文法事項に留まらず、英語を話す上での、例えばアクセントやイントネーションの与え方のような、いわゆる生きた英語に結びつくようなポイントを学ぶことができ、かつそれらの学びを実践を通じて試行錯誤できたことの意義が大きかった。また英語学習という意味では、単に英語が自然に前提される環境で英語を学ぶというだけではなく、英語学習のために組まれたプログラムで英語を学ぶことができたということも意義として固有のものであった。

さらに、このような語学の言語としての主たる面での学びに加えて、語学の文化的側面に関しても、英語で会話をするような場面での定型句や立ち振る舞いを授業においても、まさそれ以外の会話においても、プログラムの期間を通じてさまざま知ることができ、このことは「学習」に留まらない成長となったと思う。

語学を離れての所感としては、参加プログラムは専門の単位や学位の取得を目的とするような種類の留学プログラムではないものの、イギリスの大学に一定期間滞在して、その間さまざまな施設を見学したり利用したりでき、また雰囲気を感じることができたことは、将来的な、専門の単位や学位の取得を目的とするような長期留学を考える上で有益だった。

②参加後の予定

今回のプログラム参加を契機として、継続的な英語学習に取り組みたい。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

参加前は自分が十分にプログラムを活用できるか不安がありましたが、今振り返ると充実した時間を過ごすことができたと思います。もし参加したいと考えているのであれば、この点についてはあまり不安に思う必要はなく、今後に役立つ学びや経験が得られると思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go Global 掲載の体験記

旅行ガイド

鉄道各社のチケット購入サイト(駅でチケットを買うより安い)

2015年8月28日

)

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文科一類2年

参加プログラム: シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等)(3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他(

派遣先大学の概要

イギリスのサウス・ヨークシャー州シェフィールド市を拠点とする国立大学である。ラッセルグループに所属しており、ノーベル賞受賞者も多数輩出している。政治学の研究等も盛んである。

参加した動機

以前から留学したいという思いはあったが、海外に一度も行ったことのない私にとって、いきなり長期留学をするのは 不安が大きかったため、大学のプログラムとして短期間でも留学できたらと思い、参加した。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

不明点はシェフィールド大学の担当者に直接メールで問い合わせ、適宜国際交流課の方に伺った。国際交流課の方に大変お世話になった。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

ビザの事前申請の必要はなく、Short term student visa を入国審査時に取得した。パスポートと大学の受入証明書と帰りの航空機のチケットを提示するだけでとることができた。預金残高証明書、東大の在学証明書も準備したが、結果的に提示の必要性はなかった。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特にしていないが、体調管理には気をつけた。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学から提示された保険に入った。あとは加入が義務付けられている OSSMA に入った。

- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特になかった。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

出発の前に英語の雑誌を買い、付属の CD で耳慣らしをした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

パソコン。イギリスはカード社会で様々な登録や支払いをクレジットカードで行うため、自分のパソコンを持参していないとクレジット番号を打ち込むのには抵抗がある。

トイレットペーパー。大学寮には備え付けのアメニティがほぼないため、トイレットペーパーがなかった。またイギリスのトイレットペーパーは質が良くないため、日本から持参することをお勧めする。

海外慣れしていない人は、日本食を多少持参するとよいかもしれない。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は大学の語学学校で授業を受け、午後は講義形式の授業を受けた。予習・復習の必要性は少なく、宿題も少量しかでなかった。大学の先生方が講義をしてくださるが、その方々や講義内容によって、聴解の難易が変わるので、聞き取りにくい授業はとにかく頑張ってついていくのに必死だった。

②学習・研究面でのアドバイス

IC レコーダーで録音しておくと、後でわからなかったところを繰り返し聞くことができるので、おすすめである。

③語学面での苦労・アドバイス等

今までアメリカ英語を中心に勉強してきたため、ネイティブのイギリス英語を聞きなれるのには少し時間がかかった。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Allen Court というシェフィールド大学の大学寮で、一人一部屋与えられた。基本的に同じフラットに東大生はかためられていたが、私のフラットは4人の東大生と2人の中国人留学生と同じフラットだった。

Allen Court には様々な国の人が住んでおり、各フラットの共用スペースでは料理ができた。ELTC(語学学校)までは 徒歩 5 分ほど、大学までも徒歩 10 分はかからず、シェフィールドの町の中心街へも徒歩 20 分ほどで、便利であった。また、wifi を利用できた。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 基本的には長袖シャツにパーカーを羽織る程度で十分だった。大学の図書館、また語学学校には共用 PC がある。 シェフィールド市内は基本的に徒歩で行動したが、supertram(路面電車)を利用することもあった。食事は朝昼晩を 自分で調達する必要があったため、スーパーで買ったり外食したりした。自炊している人もいた。お金は、日本ですで に両替した現金と、クレジットカードで対処した。クレジットカードが使えるところが多いが、学食などは低額しか購入し ないと現金でしか支払えないことがあるので、注意が必要である。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) シェフィールドは英国一緑が多く安全で幸福度が高い都市、といわれていただけに、治安はよく、盗難にも遭わなかった。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) プログラム費は 17 万ほどだった。(プログラム費に食費は含まれていない) 週末にロンドンに遊びに行くのにかなりお金を使ったが、それを除けば、食費・交通費・娯楽費・お土産代等で 75000 円ほど。飛行機代は、往復直行便にしたためかなりかかってしまった。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) 受給しなかった。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 週末は ELTC のアクティビティーでチェスターに遊びに行ったのと、一人でロンドンを観光した。 平日は ELTC のアクティビティーに参加したり、町の中心部で買い物をしたり、大学構内の庭を散歩したりした。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) プログラム開始時にキャンパスツアーをしてくださったり、TA として講義につきそってくださったりと、学習面・精神面と もに充実していた。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 大学構内にも free-Wi-Fi が通っていたため便利だった。図書館には多くの共用パソコンがあった。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

旅行ではなく、短期留学という形で、初めて海外に行ったが、驚きと発見の連続のような毎日を過ごすことができ、とても充実した2週間だった。語学学校や大学の講義、日常生活での会話を通して、リスニングカ・スピーキングカも向上したと思う。外国の友達も作ることができた。私はスピーキングが特に苦手だったが、海外では、いかに文法に正確に話すか、よりも、いかに相手に伝えようとするか、伝えたいと思うか、という姿勢が大切なのだと感じた。片言であっても、ジェスチャーで補えば意図していることは伝わった。また、今まで日本しか見てこなかった私だが、日本では当たり前のことが、海外に行ったら当たり前ではないのだ、ということを強く実感した。もちろん文化、慣習、伝統も異なるし、その国の人々の気質、何に重きを置くか、等も全く異なる。日本では安いものが海外では高価だったり、その逆もまた然りであったりする。シェフィールドはいくら治安が良いといえども、さすがに日本と同じ感覚では過ごせない。シェフィールドという落ち着いた大学町だったからこそ、人々の日常を密に感じることができたのかもしれない。シェフィールドという都市のすばらしさを感じ、それと同時に日本という国のすばらしさも感じた。道行く人に中国人と間違えられたのも良い思い出である。日本においては自らがマジョリティーだが、海外においては自らがマイノリティーである。自分がどのように人々から見られているのか、と考えるのもまた面白かった。

総じてプログラムを振り返ると、以前よりも少しは見る世界が広がったのではないか、と思う。自分にとっては非日常 だが地元の人々にとっては日常、という異次元空間で2週間過ごすことができてよかった。

②参加後の予定

機会があれば、海外の大学に長期留学できれば、と思う。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

2 週間という期間は確かに短いし、参加者も確かに日本人が多いため、参加するのに躊躇する人もいると思うが、自ら積極的に英語を話していけば、その問題は解消されると思う。とにかく自ら動くことが大切だ。不明点・心配事があったら抱え込まずに自分から SOS を出すことが大事だと思う。たったの 2 週間でも得るものはたくさんあると思うので、

ぜひプログラムに積極的に参加してほしいと思う。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方(観光ガイド)、National Express の HP(高速バス Coach の予約)、National Rail の HP(鉄道の予約)

2015年 8月 27日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教養学部前期課程

参加プログラム: サマープログラム 派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他(未定)

派遣先大学の概要

街一帯にキャンパスが広がっていて、環境が良い。学問レベル的にも、英国内でそれなりの地位にあるらしい。

参加した動機

英語環境への順応および長期留学へのステップのため。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
- 手続きは大学側から指定されるので楽。飛行機は早めに安くていいものを押さえておきましょう。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
 Short term student visa を Border Force に発行してもらう。大学側の受入レターのみで可能。 聞かれたのは年齢くらい。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特になし。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 大学側から指定されたもののみ。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特になし。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) TOEFL や iELTS は未受験。現地で受けたテストでは C1。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど シェフィールドは街にお店がたくさんあるので、なんでも現地で揃います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

海外初心者向けの竜がプログラムであった。午前中は語学留学のように、英語の勉強を行った。各国からの生徒が集まっていたので各国の文化や言葉にも触れることができた。時々宿題が課された。

午後は、東大生向けに構築されたレクチャーが行われた。文系向けの講義をとったが、多彩な学部から多様な授業が展開されたので、飽きることなくレクチャーを聞くことができた。レクチャー後にはその授業に関するディスカッションを行う時間が設けられ、英語を話す機会にも恵まれた。予習に一時間、授業後のディスカッションに一時間あてられていたので、授業準備は万端だった。宿題はほとんどなかった。

②学習・研究面でのアドバイス

東大生ならついていけないことはないと思うので、自分なりに課題を見つけることが大切。ただ受け流しているだけで 英語力が伸びるプログラムではない。

③語学面での苦労・アドバイス等

積極的に英語を話すこと。たとえ日本人同士でも、日本語で話していてはもったいないし、ほかの国の学生に失礼だと思う。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
- Allen Court という寮が提供された。三鷹寮よりよかった。個人部屋で6部屋につき1つの強要部屋があった。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気温は高くても 20 度前後で湿気もあまりないので、日本の猛暑に比べたらはるかによい。雨が降ったのは 2 日くらいで、ほとんど傘をささずに生活できた。

寮は City Centre まで徒歩 20 分ほどだったので、何についても不自由なかった。 ほとんど徒歩での移動だったが、

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 治安はいいらしい。街中で喧嘩を見たと聞いたが、東京よりマシでは……。 期間中健康に過ごせた。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空賃 15 万円

空港大学間電車代 5000 円 授業料、教科書代、家賃免除

食費・娯楽費 4 万円程度

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) シェフィールド大学より、プログラム料免除、および JASSO から8万円の奨学金。 ただ、現地の友達にはすべて政府の奨学金で来ている子もいたので、日本の奨学金制度はまだまだだと思う。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)毎日留学生向けのスポーツイベント等が開催されていた。スケートなどに参加した。 週末は同じく留学生向けの旅行が企画されていたので参加した。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

午前の英語クラスでは先生がチュートリアルをしてくれるなど、面倒見がよかった。午後のレクチャーでも、留学生のアシスタントがついていてくれたので、語学学習面で困ることはなかった。生活面でも、スタッフに聞けば何でもこたえてくれる。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は使用せず。レストランは随所にあり。大学ショップやカフェなどが入る Student Union が便利。WiFi が各地で飛んでいるので PC 環境は困らない。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

午前の英語のクラスで、英語でしゃべることへの抵抗はなくなっていった上、授業以外に日本人同士の間でもなるべく英語で話すようにしていたので、英語力は向上した。また、午後のレクチャーは東大生向けに設定されていたこともあり、内容が濃く、教授陣も容赦なく速い英語を話されていたのでなかなか大変であったが、こうした英語もある程度は聞き取れるようになっていったし、授業後に行われたディスカッションにも積極的に参加できるようになった。

しかし、日常生活の中で、街中でお店の人と話したり、歩いている人と話したりする機会があるが、そうした人が話す英語は、教室で先生が話す英語とは異なり聞き取りづらい。ホームステイなどを通じて、教室英語ではなく日常生活で話される英語を聞き取る訓練もしていかなければならないと感じた。インターネットなどを通じ、日常生活の英語に触れられる機会を増やしてきたい。

今後は、今回の経験を踏まえて長期留学をしてみたいと思う。日本にいるだけでは狭い知見しか得られないと思うのでより広いことを学ぶため、海外に出て勉強したいと思う。また、海外の学生の勉強に対する熱意は日本人よりもはるかに強く、非常に刺激的になる。また、英語を使って、海外に出られる職業に就きたいという思いが強まった。

②参加後の予定

A セメスターから語学の授業にもっと時間とエネルギーを投資する。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外経験が少ないのなら必ず参加するべき。自分は今まで海外に出たことがなかったので、新たな視点を得ることができました。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方

2015年 8月 29日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部前期課程理科一類2年

参加プログラム: 第2回国際本部奨学金付き夏季短期留学プログラム 派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

イングランドの中部サウスヨークシャーにあるシェフィールドを拠点とする大学。イギリスの上位大学の証であるラッセルグループの一員である。人文系から自然科学系まで幅広い学部を持っている。

参加した動機

大学院から海外へ留学することを考えているため、学部生のうちに海外大学で学ぶとはどういうことか感じてみたかったから。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

提出書類が多く、東大及びシェフィールド大学から手続きに関する大量のメールが送られてくるので、締め切りを忘れないように注意しましょう。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本人はイギリスの入国審査時に「Short Term Student Visaをください」と宣言するだけでビザ(ただのスタンプ)がもらえます(わざわざ宣言しないと General Visitor Visa のスタンプが押されるので注意)。その際、シェフィールド大学への受け入れ許可証原本と帰りの航空券(e チケット控で可)の提示を求められるので準備しておきましょう。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特になし。各自、健康管理をしましょう。万が一に備え、風邪薬や消毒液などをスーツケースにいれておくと安心です。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

付帯海学、OSSMA(いずれも東大が参加者に加入させるので、指示に従うだけで良いです。)

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 留学期間が試験と重ならず、進振り手続きは海外から UTask-Web でできることを駒場アドミニ棟で確認しました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英単語、リスニングの強化をしました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ヒースロー空港からシェフィールド大学へは National Express(バス)で行くのが安いです。チケットを日本にいるうちにオンラインで予約しておきましょう。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は大学付属の語学学校で英語の授業、午後は東大生用にカスタマイズされた講義を文理に分かれて受けます。1 つの講義の前に講義の内容が理解できるように専門用語などを学ぶ preparatory seminar、講義の後には内容について議論するfollow-up seminar があり、シェフィールド大学の学生が TA としてサポートしてくれます。宿題は単語を調べてくるだけの簡単なものからエッセイを書くものまで日によって負担が違いますが、概して大変すぎるということはありません。

②学習・研究面でのアドバイス

Preparatory Seminar で学ぶ専門用語(理系英語)は講義を理解するためだけでなく、将来にも役立つのでしっかり勉強することをお勧めします。

③語学面での苦労・アドバイス等

暇な時間に一緒に街を観光する外国人の友達は午前中の語学の授業でつくりましょう。そうでないと、授業以外で英語を話す機会がなくなってしまいます。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 東大経由で申し込んでいるので、宿泊先は指定されています。きれいな学生寮です。

- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 8 月にもかかわらず気温は 21°Cくらいと、日本の蒸し暑い気候からは想像もつかないほど涼しいです。半袖一枚だと寒い日が多いので、上着を持って行きましょう。朝ごはんなどは近くのスーパーで買えます。市内の交通機関はトラム、バスを使うことがほとんどです。夕飯を外で食べると 1 回 8 ポンドはかかるので、食費がかさみます。お金は現金、クレジットカード、キャッシュパスポートに分けて持って行きました。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 治安は良いです。病気にもなりませんでした。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空費 20 万円、授業料及び宿泊費 869 ポンド、その他 10 万円
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) JASSOより8万円、東大経由で申請しました。
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 現地で出会った海外学生と観光、ホームパーティー、卓球、アイススケートなどをしました。 週末は大学が運営するチェスターへの小旅行に友達と参加しました。

派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 自分は利用しませんでしたが、困ったら相談できるカウンセラーはいました。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 複数の図書館、公園、大学の Wifi が使えます。

東大のような食堂はありませんが、生協、図書館や学部の建物などに買って食事できる場所はあります。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今まで語学としての英語を学ぶことはあっても、アカデミックな講義を海外大学で受講したことはなかったのでとても良い経験となりました。ナチュラルスピードで話す教授の講義のノートをとったことは、今後に活きてくるに違いないでしょう。英語でアカデミックな講義を聴くのは非常に楽しく、日本においてほとんどそのような機会が得られないことが残念であるため、個人的にネット配信されている海外大学の講義を聴こうかと思っています。

今回、留学して、国によって教育制度が全く違うことを知り驚きました。イギリスでは修士は1年で終わり、そもそも修士を取らなくても博士に進めるらしいです。それが素晴らしいかどうかの議論は置いておいて、日本でとるよりも若くして専門的研究に従事できる制度は面白いなと思いました。

②参加後の予定

海外の大学院に進学するためには何が必要なのか情報収集したいと考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

このプログラムはいきなり講義を受け続けるのではなく、講義をより深く理解するためのサポートがついています。そのため、語学留学と大学留学の架け橋となってくれるでしょう。またイギリスはとても住みやすく、現地学生もフレンドリーなので、滞在を楽しめること間違いなしです。夏休みを使って、このプログラムに参加する意義は大いにあります。

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
- Go Global、地球の歩き方
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

2015年8月21日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 東京大学教養学部前期課程2年

参加プログラム: シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 ②.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

2012 年に全学協定を締結し交換留学も開始されたパートナー校。ロンドンから北西約 260km に位置するシェフィールド市にある。ラッセルグループの一員であり、過去に5人のノーベル賞受賞者を輩出。(本部国際交流課配布資料より)

参加した動機

海外で滞在し学ぶとはどういうことかを知り、今後長期で留学する際の参考にする。

参加の準備

- ①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
- 学校の課題等と並行してやらなければいけないので大変ですが、できる限り早めに取り掛かり、分からない点は質問するといいと思います。
- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
- 今回の英国入国では、入国審査の際に学校からの入学許可証原本さえ見せれば、Short-Term Student Visa をもらうことができました。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)
- 学校の定期健康診断を受けた以外は特にしていません。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

指定された保険(付帯海外)と、クレジットカードについていた保険。

- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特にありません。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

TOEFL iBT を受験しました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど ホテルと違い、寮には石鹸類やドライヤー、トイレットペーパー、部屋履きがないので持っていくとよいでしょう。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は少人数のクラスでグループワークを中心とする英語の授業、午後は東大生向けのレクチャーとその予習・復習のための授業が行われました。午前中の授業のスタイルは日本と大きく違ったので最初は動揺しましたが、いい経験になりました。

②学習・研究面でのアドバイス

行く前に、ネイティブの人たちが使っているメディアに触れて、「生きた英語」に耳を慣らしておくのが良いでしょう。

③語学面での苦労・アドバイス等

私のまわりの留学生にはネイティブ並みの速さで話せる人が多く、独特のアクセントがある人もおり、聞き取るのに苦労しました。分からないときは聞き返す勇気が必要だと思います。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

学校指定の寮に宿泊しました。冷蔵庫・電子レンジ・調理器具などがある共用部屋と6つの個室からなるフラットがいくつもあるという形でした。部屋は広くシャワールームもついていました。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は日本でいうところの4月ぐらいです。大学の近くにはスーパーやレストランが充実しており、食事には困りませんでした。tram(路面電車)も発達しています。お金は必要なだけ持ち歩くようにしました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安は比較的よいほうでしたが、なるべくブランド品を身に着けないこと、物乞いに話しかけられても取り合わないことなどに気を付けました。また生魚は食べないようにしました。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

計約 400,000 円で、そのうち航空賃 280,000 円、食費 35,000 円、交通費 25,000 円程度でしたが、どれももっと安く

済ませられるはずです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
JASSO から8万円支給されました。指示があったので自分で探したわけではありません。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 大学側が放課後のスポーツやアフタヌーンティー、週末の小旅行などさまざまなアクティビティを企画してくれました。 また一日は自分でチケットを手配しリヴァプールまで出かけました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 午後の授業では TA さんがおり授業の理解を助けてくれました。また午前の授業では面談が一度ありました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 全体的に非常に充実していましたが、各施設が少し離れていました。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私は何度か海外に旅行で行ったことはありましたが、そのときには得られなかった多くのスキルを今回のプログラムで身につけることができたと思います。まず、海外という未知の環境で、自分で目的意識を持って動くというスキルです。海外旅行では親と一緒に、あるいは組まれたツアーに従って行動することが多かったため、労力を伴うことではありましたが、自分を成長させてくれる経験になりました。また、旅行の際は多少の出費は気にしないことが少なくないかもしれませんが、滞在期間が長くなるとよりよい移動手段やより安い店などを探す必要があります。プログラムに参加した仲間や、現地で出会う人たち、あるいは英語で書かれたウェブサイトから情報を得ていく力は、今後も色々なところで役立つだろうと思います。ほかにも、さまざまな文化的バックグラウンドの人との交流や、フラットでの共同生活といった貴重な体験をすることができ、とても実りあるプログラムになりました。

②参加後の予定

特に考えていません。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

2週間は短いように感じられるかもしれませんが、だからこそ毎日が新鮮に感じられ、充実したものになると思います。海外での経験が少ない方に特にお勧めしたいです。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

『地球の歩き方 イギリス』(ダイヤモンド社)

2015 年 9 月 17 日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部 前期課程 2年

参加プログラム: 奨学金付き夏季短期留学プログラム 派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

シェフィールド大学は校舎や図書館といった勉強のための施設だけでなく、様々なスポーツをするための施設も整っていて、大変過ごしやすい環境でした。

参加した動機

今までに海外留学経験がなく、将来予定している長期留学のためにも、留学とはどんなものか体験しておきたかったからです。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) 日本での手続きは書類提出が主でした。早めにやっておくべきだと感じました。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 出国前は特に手続等は必要なく、入国時の申請もスムーズでした。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 出発前に歯科検診に行きました。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 大学側から加入を義務付けられているものに加入しました。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特にありません。
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) TOEFL の試験を受けました。
- ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 常備薬、適切な服装、お茶

学習・研究について

- ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 午前の英語の授業では予習・復習はあまりなかったです。
- 午後の講義では、予習・復習の時間が設けられており、講義の内容の理解に役立ちました。
- ② 学習・研究面でのアドバイス
- 二週間という短い期間なのでどの授業でも積極的に発言していくべきだと思います。
- ③ 語学面での苦労・アドバイス等
- 上と同様ですが、とにかく自分から喋る機会を増やしていくことが大切です。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 宿泊していた Allen Court は ELTC やシェフィールド大学に近く、設備も綺麗で暮らしやすかったです。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)滞在中は気候に恵まれ、ほとんど雨は降りませんでした。また、シェフィールドは治安のよい町なので安心できました。食事はジャンクフードが多いので少し苦労しました。
- ④ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)治安はとても良かったです。健康管理としてはバランスの良い食生活を心がけていました。

- ⑤ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空運賃28万円。物価は日本の倍くらいでした。
- ⑥ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) 東京大学の奨学金8万円でした。
- ⑦ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 放課後のアクティビティーに参加したり、York や Bakewell に出かけたりしました。

派遣先大学の環境について

- ① 加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 講義では現地の大学院生によるサポートが受けられ、講義の理解にとても役立ちました。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 利用する機会は少なかったですが設備は整っていたと思います。

プログラムを振り返って

- ①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感 今回の留学を通して、今の自分の英語のレベルを認識することができ、今後の英語学習に対するモチベーション向上 になりました。英語能力はどの学科に進んでも必要とされると思うので、継続してやっていきたいと思います。
- ② 参加後の予定 TOEFLを再度受けてハイスコアを取りたいと思います。
- ③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス 予定が合うなら是非参加するべきだと思います。短い期間ではありますが、日本ではできないような体験ができ、今 後の英語学習に対するモチベーション向上にも繋がりました。

その他

- ①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
- ②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

2015年 8月 20日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部前期課程文科一類2年

参加プログラム:シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学: The University of Sheffield

卒業・修了後の就職(希望)先: 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員

派遣先大学の概要

ロンドンから北西 260km(鉄道で 2.5h)に位置するシェフィールド市にある大学で、大規模研究型大学のラッセルグループに名を連ねる。過去に5名のノーベル賞受賞者を輩出している。

シェフィールド市は治安の良い自然豊かな学園都市。イギリス第5の都市。蹴球クラブ発祥の地らしい。

参加した動機

初の海外渡航で不安があったため、グループ型参加の当プログラムに応募した。

日常生活で英語を使う機会が少ない中、現時点での自分の英語能力の把握し、英語が当たり前の環境の中での生活・学習を経験してみたかったため。英語でのアウトプット機会をもつため。__

帰国後の英語学習の指針形成とモチベーション向上のため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

大学の指示にひとつひとつ従い、期限を守って提出していけば問題ありません。分からないことがあったらメールで質問するなりしましょう。迅速に対応してもらえると思います。

- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 出国前には一切不要です。到着後、現地空港でパスポートと受入許可書を提示すれば、短期留学用の Short-Term Student Visa が発給されます。間違えて観光ビザで入国しないように。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特になし。心配であれば常備薬くらい持っていけばよいでしょう。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 東大が指定する保険(付帯海学)に加入しました。提出書類に関しては指示を守れば問題ありません。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特になし。教務課で海外留学許可のハンコをもらいました。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

直前まで語学の試験があったため特別な準備ができませんでした。BBC などでイギリス英語に耳を慣らしておくことを勧めます。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

イギリスは、物価は高いですが基本的に何でも揃っています。たいていの生活用品は現地で買えます。

また、残高把握が容易で、現地通貨を引き出せるプリペイドカードは重宝しました。日本で作っていくとよいでしょう。 即日発行も可能でした。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前に ELTC の語学授業、午後は講義→振り返り(Discussion)→次講義の予習授業というサイクルです。

ELTC の授業では、自身の体験を話す機会が多かった印象があります。

午後の講義はオムニバス形式で、4人ほどの現地生徒さんがアシスタントとして一緒に講義を受け、ディスカッションしました。自分の受けていた授業では、生徒から教員への質問が活発で、それもまた学習を深める助けとなりました。

②学習・研究面でのアドバイス

講義では、全てを聞き取ろうとすると、かえってよくないと思います。適宜メモをとり、要旨をつかむことを心がけましょう。あとは積極的に英語を発しましょう。

③語学面での苦労・アドバイス等

想像以上にアメリカ英語が染みついていて、発音の違いに戸惑うこともありました。

教員の発音は明瞭で聞き取りやすかったですが、早口な教員の時は聞き取るのに苦労しました。

どちらかというと、他国からの留学生の発音が独特になまっていて難しかったように感じます。

生活について

①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

Allen Court という 1 人部屋の寮に 2 週間滞在しました。大学の講義棟から遠くなく、清潔で、よかったです。 洗濯カードの作成手続きがやや煩雑でした。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は日本の春先くらいのイメージで、長袖1枚に上着くらいがちょうどよいと思います。空気は乾燥していて、蒸し暑い日本の夏に比べ大変快適だと思います。

大学周辺は交通量の比較的多い大通りが走っています。また公園も点在しています。交通機関は、トラムという路面 電車が大通りを走っていて、街にでることができます。歩いても行けます。路線バスもありました。

食事は外食がメインでした。言われているほど食事は不味くないです。2週間のプログラムということもあり自炊している人は少なかったと思います。

クレジットカードとプリペイドカードを持ち歩きました。基本的にどこでもクレジットは使えますが、念のため少額の現金 も持っていました。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

ロンドン市内に比べ、大変安全です。ただし油断はしないように。

幸い医療機関は利用する機会がありませんでした。シェフィールド大学の方に相談すれば親切に対応してくれるはずです。

十分な睡眠時間をとり、しっかり三食とって、健康的な生活をこころがけるとよいと思います。

④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費は、北航路で行きは直行便にしたため往復20万円。

授業料は一律 £869。

食費、交通費、娯楽費はその人の生活次第で大きく変わります。物価はかなり高いです。

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

JASSO の奨学金 8 万円

このプログラムとドッキングされている感じで、煩瑣な応募手続きはありませんでした。東大国際交流課の指示に従ってください。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

シェフィールド大学が提供する各種アクティビティに参加しました。(サッカー、アイススケート、アフタヌーンティ etc.) 週末は、同じくシェフィールド大学が提供する小旅行企画でチェスターへ行きました。またロンドン観光も行きました。 放課後にもフリータイムが結構あり、日も 21 時頃まで沈まないので平日も街に繰り出すなどしていました。

派遣先大学の環境について

①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

午前の授業では、英語学習や授業内容に関して担任の先生と面談する機会がありました。また授業中の質問も大歓迎といった感じでした。

また午後の授業では、アシスタントの方と一緒に講義内容を振り返る時間もあるので、講義でついていけない部分があっても理解できました。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は自由に使用できます。スポーツ施設は、スポーツのアクティビティ参加時に利用しました。個人利用の可否は不明です。キャンパス内にカフェがいくつかあり、グッズ売店もあります。また大学内では、無料で Wi-fi も利用できます(登録制)。

プログラムを振り返って

①プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

まず初の海外渡航で、準備から前後泊の宿の手配、現地での交通手段など全て自分で決めて行い、現地生活に適応し、無事に帰ってこられたことはそれなりに自信になりました。

授業では主体性が大事かなと思います。それにより吸収できるものも変わってくると思います。自分のクラスはアジア系の生徒が非常に多かったこともあり、授業以外でも街中で現地の人にも積極的に話しかけるようにしました。

2週間ですので語学能力が飛躍的に向上するということはないかもしれませんが、まず話してみる、使ってみる姿勢など心理的な部分に作用するものは大きいと思いますし、今までの座学に偏り音声から離れた自身の英語学習を見直す契機にもなりました。求められるのは単純な英語の知識やリスニング能力だけではなく、相手の話すことを理解し自身の意見を論理的に伝達する能力や、世界と日本に関する知識など、総合的なものなのだと身をもって体感しました。アウトプット機会の確保を留学の主眼に考えていましたが、それと同時にアウトプットするための知識のインプットも両輪で進めなければいけないと感じ、日頃おろそかにしている部分と向き合うことができました。

②参加後の予定

IELTS 受験予定。さらなる長期留学も検討中。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外渡航経験の少ない人、留学経験のない人にはぴったりのプログラムであると思います。迷っているなら参加しま しょう! 得るものは必ずあると思いますよ。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方など各種旅行書、Go Global にある留学体験談

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

2015年08月19日

)

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):前期教養学部文科Ⅱ類

参加プログラム: 国際本部第二回夏季短期留学プログラム 派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

(5.民間企業(業界:コンサル・金融) 6.起業 7.その他(

派遣先大学の概要

シェフィールド大学

イギリス中部地方に位置するシェフィールド市を拠点とする国立大学。イングリッシュ・アイビーリーグの一つである。 QS によると、世界ランキングは 66 位に位置している。

キャンパス・ユニバーシティの形態をとらず、建物が一か所に集中していない。

参加した動機

3 年での全学交換留学または私費留学を応募するにあたり、授業にどのくらい適応できるのか、という観点から自分の現時点での英語力を図りたかった。また授業を現地で直接受けることで、一年間留学するイメージを掴みたかった。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

東京大学に申請書類を送りました。

その後もメールにて必要な情報が提示されるので、逐一メールは確認しておく必要があると思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) ビザ申請にあたり準備したものとして

- ・シェフィールド大学からの受け入れ承諾書
- ・日本銀行の英文残高証明書
- ・帰りの航空券のコピー

実際に提示を求められたのは 受け入れ承諾書・航空券のコピー の二つでした。

- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特に準備をしませんでした。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 東京大学から指定された学研災付帯海外留学保険「付帯留学」・OSSMA 保険に加入しました。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 特にありません。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

学部3年の全学交換留学を見据えて、5月からIELTSの授業を受けていました。

具体的な IELTS のスコアは 6.0、TOIEC のスコアは 800 点でした。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

ポケットWIFIを一応持っていきましたが、宿泊施設・大学内に無料のWIFIが流れていたので、必要ないと思います。またイギリスは想像以上に物価が高いので、クレジットカードやキャッシングカードはきちんと準備していくのがよいと思います。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中は英語学習のクラスでした。

ほかの海外からの留学生と交り、教科書をベースに英語の勉強をしました。ディスカッションの形式が多かったです。 午後は実際の講義クラスでした。

東大生の文系・理系それぞれ分かれて、文系的な授業を5つの分野にまたがり、5回受けました。

一つの分野の授業は予習・講義・復習に分かれていて、

予習は講義で扱うトピックに知識や専門語彙のインプット。講義は教授による70分ほどの講義と 20 分ほどの質疑応答。復習はそのトピックについて、現地大学生とのディスカッション。このような構成でした。

印象に残っている授業としては、民主主義の授業があげられます。

民主主義の発展の歴史をギリシャから遡り、現代のイギリスの市民権にまでおよんだ講義は、話す内容がバラエティに富み、大変興味深かったです。また講義後の現地学生とのディスカッションでは、憲法 9 条についての話し合いとなり、イギリスの学生の考える戦争や防衛権に対する価値観を感じることができて刺激的な授業でした。

② 学習・研究面でのアドバイス

学習面では、事前に扱う授業の内容が提示されていたので、プログラム参加前にその分野にかんして予習を行うことは、本プログラムの授業のさらなる理解につながるのではないかと思います。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

授業自体には、ほとんどの授業についていくことができました。

スライドと違う内容を教授が話す場合やスライドがほとんど内容理解の参考にならない場合に多少苦労しました。 アカデミックな語彙を習得していくと、なお授業の吸収量は多かったと思います。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 宿泊施設はシェフィールド大学が提携している施設に滞在しました。

一人部屋で、比較的新しく清潔感があり、広かったです。

シェフィールド駅からはタクシーで指定された住所を提示したところ、きちんと宿泊施設まで届けてくれました。

- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 気候は予想に反して、晴れの日々が続きました。気温は寒暖差があり、朝や夜はかなり冷え込みました。 交通機関は基本的に 徒歩・トラム(街の中心を通る)の二つを利用していました。 食事は提供されなかったの、外食が大半を占めました。
- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 日が暮れるのも遅く、治安は比較的によかったと思いますが、街の中心街(特にパブなどの飲み屋が集中する場所)では夜は危険を感じました。
- イギリス料理は野菜が少なく、意識的に野菜を摂取していました。野菜は近くにスーパーで購入可能です。
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) プログラム料 約800 ポンド

食費・交通費・娯楽費 約 400 ポンド

イギリスは食事代・施設の入場料・交通費などは物価が高い分、かなりかさみます。

- ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) 奨学金は受給していません。
- ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 大学が提供しているスポーツ・週末観光などのアクティビティが盛んでした。 現地大学生とのサッカーマッチや週末のチェスター旅行などの機会を大学側が提供していました。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
- 語学面・学習面でのサポートはあったが、生活面・精神面でのサポートはありませんでした。

語学面では、授業の講義の前に予備知識・語彙のインプットが行われたことはとても助かりました。

記す由しは、汉未の神我の別に!哺和職・記集のインフッドが11/1/いことはとして別かりました。

学習面では、現地の大学生と講義を振り返るコマが毎回の授業後に設けられ、これも講義を吸収する上で助けになりました。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

大学の施設は全般的に充実していたと思います。

図書館も複数存在し、落ち着いて勉強できした。ネット環境も完備されていました。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感本プログラムは大変意義のあるものでした。

理由として三つあります。

一つは自分の英語力が適切に測れたことです。合計 5 つの講義を受け、ほとんどの授業が理解できました。しかし授業はやはり留学生を意識したものであると思われ、教授の熱が入りナチュラルスピードになると理解に苦しむ場面もたびたびありました。これから留学に向けて、リスニングカの強化及びアカデミックな語彙の習得が必要だと通解しました。また現地の大学生との会話についても、講義に対するディスカッションでは十分に話すことができる事がわかった反面、日常会話で苦労しました。苦労した分、自分から積極的に話すことを意識し、多少英語会話に対する慣れを経験することができました。一年間の留学を通して、日常会話の英語力が伸びる姿が想像ついたことは大きかったです

二つ目は留学というものを直接経験できたことです。2週間と短い期間でしたが、図書館で勉強したり、現地大学生と放課後に遊びに行ったり、教授とパブで話したりと様々な経験をすることができ、留学の一面を覗き、またその一面を楽しむことができました。シェフィールドという自然の多い都市の中で落ち着いて勉強に集中し、また娯楽がないながらも、大学生や教授との関係の中で楽しみを見出すことのできる留学にとても興味がわきました。そのため、全学交換留学に応募したいと思う動機につながりました。

三つ目は刺激ある講義の中で、アウトプットを求められる経験ができたことです。東大での授業も同様に刺激的で、情

報量も多く学びが多いですが、イギリスでは、その場で講義後に意見を求められる講義の中で、緊張して授業にのぞむ経験を詰めました。現地の大学生も、日本の話題など不慣れなトピックであっても、意見を構築しぶつけてくる姿勢の驚くとともに、こうした学生のディスカッションを通じて講義に対する理解を深めることができました。

③ 参加後の予定

学部3年全学交換留学プログラムに応募しようと考えています。

また無事に経済学部に内定しましたので、経済の分野での専門性を学部にて深めていきたいと思います。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス 夏休みという短い期間ですが、行ってみると思わぬ発見があるものです。 気づけばあっという間に過ぎる夏休みに、思い切って参加してみてください。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特にないです

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。 シェフィールド大学の校舎

2015年 8月 18日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部文科 3 類・2 年

参加プログラム:シェフィールド大学サマープログラム

派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 5.民間企業(業界:未定)

派遣先大学の概要

イギリス中部に位置するシェフィールドという都市にある国立大学。イギリスの大規模研究型大学 24 校によって構成されるラッセル・グループの一員であり、ノーベル賞受賞者を 5 人輩出している。

参加した動機

長期留学に興味はあるものの海外経験の少なさや語学力に不安があり、そのような学生をターゲットとしているこの 短期プログラムに惹かれたため。また、単なる語学の学習だけではなくシェフィールド大学の教授陣からさまざまなテーマの講義を受けられることも魅力だと思ったため。

参加の準備

①プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

国際本部交流課が手厚くサポートしてくださるので、国際本部交流課からのメールをしっかり読み、どの書類をいつまでに提出すればよいのかを把握しておけば大丈夫だと思います。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)
Student visa の取得にあたっては、帰りの航空券とシェフィールド大学からの受け入れ許可証を提示すれば大丈夫です。念のため私は東大の在学証明書(英語版)も持っていきました。

- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 常備薬を持っていきました。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) プログラム参加にあたって義務付けられている「付帯海学」に加入しました。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 応募書類を提出する前に前期教養学部の窓口で注意点を聞き、署名をもらいました。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) TOEIC は約800点。IELTS はオーバーオール5.5。
- ⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど シェフィールドの気候はとても涼しいので上着を持って行ったほうが良いと思います。また、ELTC による自由参加の アクティビティがあるので運動用の服や靴を持っていくと良いと思います。

学習・研究について

①プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前は ELTC による英語の学習、午後は文理にわかれてシェフィールド大学の教授による講義を受けました。前者は韓国や中国をはじめとした留学生と混合のクラスで、後者は東大生のみのクラスになっています。また午後の講義の前後には予習と復習のセミナーがありシェフィールド大学の学生がアシスタントをしてくれます。

②学習・研究面でのアドバイス

ELTC の講義では他の国からの留学生が積極的に発言をしていたのでそれに押されず自分も積極的に英語を話したほうが良いと思います。午後のセミナーではシェフィールド大学の学生を交えたディスカッションが中心となるので常に自分の考えや意見を持って講義を受けることが大事です。

③語学面での苦労・アドバイス等

午後の講義では、アカデミックな内容の講義をネイティブスピーカーによる標準の速度で聞きとらなければならず大変でした。事前に関連したテーマの語彙をチェックしておくと役立つと思います。

生活について

- ①宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)
- Allen Court という大学の寮に宿泊しました。ELTC から歩いて5分程度の場所で、Free-Wifi が利用できました。ただトイレットペーパーなどの生活品は備えられておらず自分で買いそろえることになりました。
- ②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) シェフィールド大学の周りは学生街ということもあって治安は良く、気候も穏やかで過ごしやすい場所でした。食事は 自炊をしたり、町のレストランに食べに行きました。お金は現金とクレジットカードに分けました。
- ③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 治安は良いが、それでも夜間の1人歩きなど危険な行動は避けました。
- ④要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空賃:15万、授業料と宿泊代:約16万(免除)、食費と交通費と娯楽費:約7万円
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) JASSO の奨学金8万を受給しました。プログラムの募集要項に記載があります。
- ⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 放課後に ELTC のアクティビティでバドミントンやヨガ、アイススケートをしました。週末はマンチェスターに行き観光を しました。

派遣先大学の環境について

- ①参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
- 短期のプログラムであったため特にサポートは受けませんでしたが、初日に様々なサポートについてガイダンスがありパンフレットが配られました。
- ②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)
- 図書館やカフェ、学内 Wifi などが利用できました。

プログラムを振り返って

(1)プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

海外経験が少なく語学力に自信がなかったため最初は不安でしたが、徐々にイギリスでの生活に慣れてくると不安はなくなり、むしろ毎日がとても刺激的に感じられました。授業のスタイルや海外の学生の積極的な姿勢に影響されて自ら積極的に英語を話そうとする姿勢が身に付きました。2週間という短い期間ではありますが、予想以上に様々なことが学べ、異なる国籍・文化を持つ外国からの留学生とも交流する機会に恵まれ非常に有意義でした。自分に足りていないものが今回の留学で明確になったので今後に活かしていきたいと思います。

②参加後の予定

学部3年か就職後に留学を考えています。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

もし参加を考えているのなら応募したほうが良いです。懸念材料は人それぞれあるとおもいますが、このプログラムは 絶対に行く価値のあるものだと思います。

その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

地球の歩き方

http://.london-ryugaku.com

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

2015 年 8 月 24日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 法学部3年

参加プログラム: ④SHEF 派遣先大学: The University Of Sheffield

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他(未定)

派遣先大学の概要

ロンドンから北西約 260 キロほどのシェフィールド市内の大学。ラッセル・グループの一員で過去に 5 名のノーベル賞受賞者を輩出。

参加した動機

将来的に長期留学を考えており、まず2週間程度の短期プログラムに参加してイメージをつかみたいと思ったため。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

航空券は早めにおさえることをおすすめします。pre-registration 等についても試験と並行してこなさなければならなかったため、早め早めの準備が必要かと思います。

- ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) Student visitor visa のため、事前手続きは特に不要でした。
- ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特に行いませんでした。
- ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 大学指定の保険に加入しました。
- ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 講義・試験とは重ならなかったため、指定書類と受け入れ証明のコピー提出のみでした。
- ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

普段から TED や bbc learning English は聞いていましたが、出発前日まで試験があったため準備はあまり行えませんでした。2 年生の時受験した TOEFL のスコアで応募しました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

持参したほうがよいと思うもの:電子辞書、モバイル Wi-Fi(大学構内は Wi-Fi が使えますがあると便利です)、アメニティ類一通り

単語・文法の復習、リスニング等は多少やっておくとプラスになると思います。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

午前中はレベル別に ELTC のクラスに入って英語の授業を受け、午後は東大生のみで文理に分かれてレクチャーを受けました。午前のクラスは 13~16 人程度で 3~4 つのグル―プでのディスカッションを中心に、単語・文法・発音等も学習しました。午後のクラスでは、事前に単語を確認するセッションと事後に TA さんを含めディスカッションするセッションがありました。予習は単語の確認、復習は全てのレクチャーで行うことは出来ませんでしたが、自分の専門に関係したレクチャーについて要約を作成していました。

② 学習・研究面でのアドバイス

単語を事前に頭に入れておけば講義の内容理解自体はさほど大変ではないので、関連するトピックについて日本のことを紹介できるようにしておくとディスカッションが有意義になると思います。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

最初に受けたテストで1番上のクラスに入れたため周りのレベルが高く、良い刺激になりました。最初のテストはなかなか集中しにくいので、特にリスニングにしっかり気持ちを入れて受けられると自分の希望するレベルのクラスに入れて満足度が上がるのではないかと思います。

スピーキングが思うようにいかず何度も悔しい思いをしました。そもそもディスカッショントピック自体について知識がないことも多くあり、自分が英語で表現できる知識の乏しさを痛感しました。また、教室では聞き取れても飲食店などでのリスニングに苦労しました。拙い英語でも何とか話そうとすれば周りは聞いてくれるので、勢いで話すことが大事だ

と思いました。

生活について

- ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 今年は昨年までと変わって Allen court という寮が指定されました。トイレ・シャワーは自室についており、共同のキッ チンスペースがありました。
- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 気候は涼しくて過ごしやすいです。大学周辺は治安が良く、安心できました。お金は主に現金を使って、交通機関の事前予約や大学の週末旅行等にクレジットを使いました。
- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)シェフィールドは治安が良いですが、夜 21 時頃暗くなるので、それ以降は一人では出歩かないようにしていました。
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空賃 40 万円程度(土曜発日曜着の直行便になってしまったため)、授業料・家賃等含むプログラム費: 16 万円程度、食費 4 万円程度、交通費・娯楽費 4 万円程度
- ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)
- ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 大学のアクティビティに参加したり、個人で観光したりしました。午後が空きの日には出歩くことも可能です。勉強は主 に図書館でしていました。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等) 正式なサポート枠組みを利用する機会はありませんでしたが、英語のクラスでは中ごろに教授とのチュートリアルの 機会があり、いろいろ話すことが出来ました。午後の授業の TA さんも皆さんとても親切でした。
- ② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 図書館は複数あり、24 時間使えて居心地も良かったです。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今回このプログラムに参加してみて、改めて自身のスピーキングカの低さを痛感し、英語を使った学習だけでなく、英語自体を学習・訓練することの必要性を感じました。たった2週間でスピーキングへの抵抗が減ったという以上に英語力が伸びたとは正直あまり思えませんが、文字通り留学体験が出来、自身の今後を考える上で一つの大きなステップになったという意味で非常に有意義だったのではないかと思っています。

また、TA の学生さんたちや英語のクラスの各国からのクラスメート、教授を含め、たくさんの素晴らしい人に出会えたことも良かったです。

② 参加後の予定

長期留学したいと改めて思っていますが、細かい進路はまだ検討中です。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

前半の自身への戒めも含め、とにかく積極的に話すことが大切だと思います。また、このプログラムは 1, 2 年生で参加しておくとその後の幅が広がると思います。3 年生以上でも海外慣れしていない人にとっては得るものは多いと思います。

その他

- ① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物
- ② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

2015年11月5日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 前期教養学部1年

参加プログラム:2015 年第 2 回東京大学国際本部担当奨学金付き夏季短期留学プログラム

派遣先大学: シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) ●.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

サウスヨークシャー州にあるイギリス有数の総合大学である。

参加した動機

小学生の頃から、大学になったら海外に行って広い世界を見てみたいと思っていました。英語圏に2週間という期間も海外での留学体験としては自分にとって最適なプログラムだと感じました。1年生のうちに短期留学を経験して、海外はどのようなところなのかを経験したかったという気持ちが強かったです。そのため、今回の短期プログラムへ応募しました。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

まず行く気になったら必要な書類をすぐ取得してください。留学関連では基本です。

またプログラムの種類問わず特定の語学試験のスコアが必要です。今プログラムの場合はできるだけ早く TOEFLIBT、または IELTS の勉強を始めて、試験の予約を行ってください。試験は毎週ありますが、すぐに定員オーバーします。運がいいと自宅から徒歩で行けたり定期が使えたりする範囲の会場でとれますが、場合によってはかなり遠いところで受ける必要が出てきます。

今回は前期試験最終日の翌日に出発だったのと、出発直前まで航空券や空港から寮への大学ストアでのタクシーの手配などやることが山盛りで、頭に入らないこともあります。私は母に応援を頼みました。

出発空港行きの電車の切符の購入や海外で使えるモバイルルーター(外出中に便利)のレンタルなど、直前で必要なものが出てくるので、自宅から出発して、また自宅に帰るまで頭の中でシミュレートしてください。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) 入学証明書が受け取れますので入国時に管理局の人に提出してください。

また提出の際には自分が短期留学目的であることを必ず伝えてください。私は伝えたのですが、手違いで一般ビザのスタンプが押されました。大学で気づき相談したところ入国管理局の間違いであることを伝えていただき、無事に留学できるようになりました。

ビザには銀行の英文残高証明書と必要になる可能性があると聞きぎりぎりになって取得しましたが、特に使うことはありませんでした。ただし転ばぬ先の杖で取得しておきましょう。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

かゆみ止めのような常備薬を持っていきました。英語で薬の成分を書いた紙を持っていきましたが、出入国で咎められることはありませんでした。

- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 大学指定の海外保険「付帯海学」を利用しました。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 私は1年生であったので前年度の成績は提出する必要がありませんでした。出発が前期期末試験終了翌日であったので日程の問題もありませんでした。
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

私は抽選漏れしないように TOEFLiBT を2回受験しました。ギリギリの試験の申込だったのに加えて期末試験の勉強でほとんど試験対策ができませんでした。最終的に提出したスコアは 65 点でした。この程度あれば1年生でも問題ないと思います。

ただし実用的な英会話ができず、Student Union でサーティーワンのアイスのように並んでいるサラダを購入するときにどのサラダが欲しいか選ぶことができなかったり、スーパーでの会計の時に言葉が出なかったりと苦労しました。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 今回私が泊まった Allen Court では、寝具はクリーニング済のものがありましたので持ってくる必要はありません。私はアレルギー性鼻炎なので大量のティッシュペーパーを持っていきましたが、鼻をかむ以外にも汚れを吹くと

きなどに役立ちました。

またトイレットペーパーは部屋にありませんので前もって必ず1個持ってくるとよいでしょう。もしも忘れたら誰かを誘って2個入りのものを買って分けましょう。

お塩などの調味料、ご飯を載せるためのプラスチックのコップやお皿などもあると便利です。

私はヘルシンキの空港を経由したので、そこでお土産を購入するときにユーロが必要でした。クレジットカードでも最悪何とかなりますしポンドから変えることもできます。

ハサミなどの文房具や栓抜きは必要ですが、機内の持ち込みができないので必ずスーツケースに入れてください。

向こうではある程度インターネットを用いた宿題を要求され、またインターネットを利用できる場所はたくさんあります。使い慣れたパソコンを持ってゆくべきでしょう。

海外用のお金が入ったお財布は2つ持ってゆくとよいでしょう。万が一1つ紛失した時ももう一つあれば帰国できるでしょう。わたしはキャッシュパスポートという外貨専用のクレジットカードを持っていきました。イギリスには街中に ATM があるのでクレジットカードを持っていくとよいでしょう。

向こうで仲良くなった友人や、お世話になった先生に私は日本のシール、ふろしき、箸などを持っていくとよいでしょう。私は午後の語学クラスでお世話になった先生と TA の方に渡しました。

最後に、日本から持ってきたものでも寝具など重量の関係で持って帰れないものがあるでしょう。寝具や缶詰などの場合は、Allen Court から徒歩30分程度の場所にあるシェフィールド大聖堂に平日の14時までに持って行けば寄付することができます。イギリス在住でなければ住所は不要です。できる限りものを無駄にしないようにしましょう。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

理系と文系のどちらの内容を学ぶかを出発前に決めます。これは所属にかかわらず好きなものを選ぶとよいで しょう。私は理系のクラスを選びました。

午前は英語の学習のクラスです。初日に簡単な英語テストを受け、その結果によってクラスが分けられます。 Allen Court からかなり坂を下った大通りにある ELTC(English Language Teaching Centre)の建物で、15人前後のクラスで英会話の授業が行われます。このクラスでは同じグループ以外の日本人のほかに中国や韓国などのアジア人や非英語圏の人がさらに4人程度のテーブルに分かれて授業を受けます。

大学の講義のようにノートを写すタイプではなく、配られたプリントを埋めたり、ちょっとした映像を見てそれに関する問題が出たり、テーブル対抗で英語のゲームを行ったりして英語になじんでいきます。

過去形や助動詞など文法として知っているものを学ぶこともあります。この時文法としてわかっていても頭から出てこないという体験をすることもたびたびあるでしょう。

毎週のように人々が入れ替わるので、週の初めはお互いの紹介のために特にゲームがよく行われます。また先生も日によって違います。宿題はあまり出ませんし出ても量が多いわけではありません。

私は内気なので今回の留学で友人はできませんでしたが、ここで外国の人と仲良くなった人もいるようです。

午前と午後の教室はとても離れているので決して遅れないようにしましょう。急いで行っても15分から30分程度はかかります。せっかくなので ELTC 近くのお店で昼食にフィッシュアンドチップスを買うのもよいでしょう。

午後の授業は法学部の建物を使います。東大生だけの授業であり、理系文系で別の教室に分かれて、複数のテーブルのまわりに自由に座ります。いつも同じ先生が授業を担当します。ただオムニバス形式の講義はそれぞれの内容の専門の先生が中心となって行います。主題の授業にはそれを補強するための前準備の「Preparatory Seminar」と感想や学んだことをより理解するための「Follow-up Seminar」が前後に存在します。

Preparatory Seminar では、授業に必要な単語や知識を予習します。専門科目の授業中はスライドを使って行われます。特にやるべきことは先生の話の要点をメモし、内容をつかむことです。

Follow-up Seminar では、講義の内容に関して問われたり、TA の方と一緒に講義内容からクイズを出し合ったり、講義の内容についてディスカッションをしたり、講義内の各要点のまとめをクラスメートの前で話したりしました。

② 学習・研究面でのアドバイス

午前の授業は、そこまで大変ではないので楽しみながら英語を習得していきましょう。気になった単語はノートに 書き留めて調べるとよりよい学習効果を期待できます。

午後の授業で最も苦労するのは、専門科目の先生方の話を聞き取ることです。当然ながら英語ですので、スピードが速く聞き取りにくいです。そのため Preparatory Seminar の単語と知識をしっかり頭に叩き込んでおきましょう。スライドで親切に内容をまとめてくださいましたが、それでも先生方の言葉が聞き取れずに一部の内容についていけなかったことがありました。

ちなみに非英語圏出身の専門科目の先生もいるため、そもそも訛りで聞き取りにくいということもあります。それ を聞き取ることもまた訓練です。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

本当に苦労したのは授業ではなく、日常会話です。また Follow-up Seminar で物事を他の人に説明する際にも、 時々文章の形が作れなかったり最適な動詞が頭から出てこなかったりという苦労がありました。できる限り多くの文 のひな型を前もって習得することをお勧めします。

大切なのは積極的に話していくことです。多少文法が間違っていたとしても話すことで英語能力を身に着けていきましょう。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

大学側から指定の寮である Allen Court に泊まりました。建物自体2つあり、それぞれに外部の侵入者を防ぐ門があります。入るときは部屋に入るときに使うカードキーをつかって開けます。

一人一部屋なので快適です。数部屋ごとにひとまとまりになっており、各まとまりにはキッチンや電子レンジが備え付けてある会議室があります。お風呂はありません。トイレとシャワーは同じ部屋なので、気になるならマットを日本から持ってきて敷きましょう。ゴミ捨て場は外にあります。部屋によってはすぐにキッチン用品がそろった会議室もあれば、私たちの部屋のように長い間空っぽだったところもありました。

私自身面倒くさがり屋だったこと、また気づかなかったことから部屋全体を照らすライトやスタンドライトは使用できませんでした。ベッド横のライトを利用していましたが、これも結構明るいです。窓を開けていると風が入ってきて寒いので閉めましょう。

洗濯は寮のセンターにあるランドリーを使います。部屋の鍵を受け取る際にランドリーのカードがもらえます。クレジットカードを使った PayPal というサービスに加入する必要があること、ちょうどよくお金を使いきれないような入金設定など不便ですがかなりきれいになります。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

ほとんどの日が晴れていたのでとても暮らしやすかったです。ただ念のため折り畳み傘と長袖の服を持っていきましょう。私はいつも長袖でした。とても治安がいい街のようで、暮らしやすかったです。多数のスーパーがありますが、皆がよく使っていたのは TESCO というイギリスの最大手スーパーです。何店舗かあるのですが、特に坂を上り横断歩道を渡った奥にある TESCO に最もお世話になりました。お酒など一部のもの以外はセルフレジで支払いできるので楽です。

基本的にイギリスならではの食べ物というのは特にありませんが、私はよくフィッシュアンドチップスを食べました。町中に売っているお店があります。

海外のレストランが集まっている場所でビールを飲んで酔っ払ったり、中華料理のバイキングでおなか一杯食べたりととおいしいものを食べられたと思います。

私は普段は TESCO で買った春巻きのような薄いパンにオリーブのピクルスを載せたり、マーマイトという健康調味料を載せたりして食べていました。また多くの種類のドライフルーツや日本と同じ種類でも見ないタイプの野菜と果物も売っているため見るだけでも随分と楽しめます。最近はやりの「ドライデーツ(干しなつめやし)」もイスラム圏の方が多いからか、おやつ作りに使うためなのか、とても安価で売っています。7割糖分なので手軽なカロリー補給に使っていました。しょうが味のビールなどおいしいお酒もあるので試してみてください。もちろん Student Union やELTC のカフェで食べるのも楽しいです。

交通機関は基本的にはバスと路線電車です。通学の際に使う必要はありませんし、私もあまり使いませんでしたが便利です。遠くに行くときには大聖堂のあるエリアの近くに長距離バスがあります。私はマンチェスターに日帰り個人旅行しました。

中国系の方が多いのか、中国の食料品店がたくさんありました。気が向いたら行ってみてもよいかもしれません。

VISA などのクレジットカードがあれば海外送金の必要なく会計ができます。現金は日本円で合わせて10万円程度を2つのお財布に分けて入れておけばまず困りません。

お土産についてですが、基本的には Student Union を使うとよいでしょう。シェフィールド大学グッズを多数販売しています。満足いくものがなかったら、大聖堂のあるところを超えて市役所や町の遊園地があるところまで行ってみましょう。マークススペンサーなどの大きなお店で紅茶やイギリス的なウサギの像を購入することができます。そのほかにも様々な場所があるので仮に Student Union で満足してもぜひとも行くべきです。

留学とはいってもシェフィールドの観光も楽しみましょう。私は授業のある場所や TESCO の下見以外にも様々な場所に行きました。徒歩圏内でも植物園や大聖堂があります。もちろんシェフィールド大学自体も観光名所ですし、その近くの博物館を見るのもよいでしょう。ただ大聖堂のほうまで歩くだけでも日本とはかなり風景が違い楽しいです。基本的に楽しい場所は大聖堂側の大きな広場の側にあります。ちなみに私が ELTC のアクティビティで連れてっていただいたアメリカ風のデザインの映画館兼ボウリング場はそこよりかなり向こうであり、路面電車で行きました。残念ながら駅の名前は覚えていません。

- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 治安はいいので安心しましょう。ただ生水はやめてミネラルウォーターを飲むようにするとよいでしょう。
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空費は35万円ほど、食費交通費など現地で使ったお金は15万円くらい、授業料と宿泊代は17.5万円くらいです。航空費は他の人たちは格安航空のおかげで半分以下のようです。JALを利用した値段だと考えてください。
- ⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) 私は受け取りませんでした。
- ⑤ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

ELTC では、英語を学ぶ学生同士が仲良くなるようにスポーツなどのアクティビティがあります。私は他の人とかかわりを持つことが苦手なのですが、ボウリングのイベントに参加しました。一緒に参加した人の中で日本人はいませんでしたので、会話が苦手でも外国の方と楽しく交流ができて幸せでした。

週末にはチェスターという大きな町へ行くアクティビティがあり、オンラインストアでチケットを購入してから参加しました。独特の建築物や広場があり、シェフィールドとは全く違った街並みが楽しめます。チェスターの歴史博物館、古代についての博物館、チェスター大聖堂があり、お土産を買いつつ楽しみました。

また一人で20ポンドほどの運賃で路線バスに乗りマンチェスターの町を観光しました。まさに都会というよう場所やシェフィールドの大通りをより都会らしくした通り、小さな中華街、お土産を売っているお店など様々な風景を見る

ことができました。ちなみに路線バスの駅は LGBT の方の住む場所らしく、道路に虹のマークがあったり、建物に虹色の旗が掲げられていたりしました。虹は LGBT の象徴です。中華街ではなぜか本物と偽物の日本アニメのキャラグッズが中国の小物と並んでいました。もちろん料理店や食べ物を販売している中国スーパーもありました。

個人的に気に入ったのは往復のバスから見えた美しい自然やのびやかに暮らす家畜と、YO!Sushi という回転ずし型のレストランです。レストランのほうは基本的には回転ずしと同じですが、値段がとても高い(一皿5ポンドすらある)こと、お寿司以外にもちょっとした料理が流れてくること、中華料理などのお皿もあることです。お皿に調理した時間が書いてあるキャップが載せてあったり、ラムネや枝豆があったりととても楽しめます。私のお気に入りは葉っぱ類の漬物とごはんを鮭の皮で巻いてあげたお寿司です。もちろんおなじみカリフォルニアロールもあります。ちなみにこのお店はヒースロー空港にもあります。

私は時間の関係上いけませんでしたが、近くには動物園があるそうです。

私は散歩が好きなので授業が終わったらイギリスの街並みを見物しました。ヨーロッパは夜になっても明るいのですが、多くのお店は17時半には閉まってしまいます。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

語学面・学習面では授業内のサポートがすべてです。とても親切で TA の方も優しく友好的でした。生活面と精神面では初日に冊子が渡され、もしも病気などがあったら、警察に用があったらなどを詳しく書かれていました。また安全に関するビデオも見ました。

先生方や TA の方は授業外に話しかけても快く応対してくださったので、安心して生活できました。

⑥ 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館の利用が可能で、行ってみましたが本は読みませんでした。大量の蔵書がありました。

Student Union(生協と教務課と食堂が入ったような建物)では、カフェや食事をする場所がありました。生協のように食べ物や必需品を買うことのできる場所もあり、品ぞろえは豊富です。私たちが言った時は夏休みだったのであまり人はいませんでしたが、それでもお昼ご飯の時間は混みます。

ELTC にもカフェと自動販売機があるので、朝ごはんはそれですましましょう。

パソコンは ELTC に配置されています。Wi-Fi は Allen Court 内のものがあります。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

今回参加した理由である短期留学の実現、海外での英語を使った生活への慣れなど、最初の目的は達成できました。またプログラムの授業を通して、英語をより高めたい、もっと英語を使い、英語で学びたいという気持ちが湧き出ました。2週間という時間は振り返れば短い時間でしたが、それでもかなりの人間的な成長ができたと思います。

②参加後の予定

後期の授業が始まったのでなかなか時間が割けませんが、再び TOEFLiBT を受けて自らを磨くための英語の訓練とイングリッシュカフェに行く予定です。

③今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

2週間は長いようで短いです。飛行機代や各種かかるお金は確かに高いですが、その分の価値はあります。向こうでどう暮らせばいいかは私なりのここまでで書ききったのでアドバイスはその前のものを見てください。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

Go!Global のサイトと冊子

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

1枚目、2枚目 タウンホールと近くの遊園地

3枚目 TESCO の出張店 TESCO EXPRESS

4枚目 Allen Court

5枚目 Arts Tower

6枚目 シェフィールド大聖堂

7枚目 何かの慰霊をしていると思われるシェフィールドの広場

8枚目 シェフィールドの大通り

9枚目 シェフィールドの大学に近い通り

10枚目 シェフィールドの路面電車

11, 12枚目 マンチェスターの中華街

13枚目 日本料理レストラン YO!Sushi

14, 15枚目 チェスター大聖堂

16枚目 チェスター大学

17枚目チェスターの街並み

































2015年 8月 27日

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時): 教養学部(前期課程)理科一類 二年

参加プログラム: シェフィールド大学サマープログラム 派遣先大学:シェフィールド大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:機械、情報) 6.起業 7.その他(

派遣先大学の概要

イギリスのトップ大学群の一つのラッセルグループに所属しており研究、教育で高い評価を得ている。大学の施設は キャンパス内にあるのでなく町中に近い距離で点在している。

参加した動機

将来に長い期間での留学を希望しているので短い期間でも海外の大学の雰囲気を感じたかったまた自分の英語能力を高めたかった。さらにイギリスは前から行ってみたい国であったことも動機の一つだった。

参加の準備

- ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)
- 英語能力の証明はできるだけ早くとっておくことが重要。私の場合はかなりぎりぎりで試験を受けたので準備もほとんどできなかった。またメールで手続きのやりとりをすると思うのでこまめにチェックすることも重要。
- ② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) Short-term-student visa が必要だったがこれは入国審査でもらえるので事前に日本で申請する必要はなかった。ただこれをもらうために提示する必要のある書類(留学先の受入証等)は事前に確認して準備を忘れずに。
- ③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特に健康診断や予防接種は受けなかった。風邪薬などは持って行った。
- ④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 付帯海学というこのプログラムに参加する人が必ず参加しなければいけない保険にのみ入った。これは指示にしたがって書類を提出すればいいので特に心配いらない。
- ⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)特になし
- ⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) プログラムの詳細が分かった後に TOEFLibt を受けた。スコアは 74 でこのプログラムの目安
- ⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど ドライヤーは備えつけてなかったので持っていくと便利だった。また自分のノートパソコンを持っていくと課題をやるとき に便利。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

英語のクラスは授業では教科書の内容についてグループワークやディスカッションをするのが基本的な進め方。各自の学習は宿題など復習中心。アカデミックなレクチャーのほうは私は理系だったのだが講師によってディスカッション中心の人と講義中心のひとがいた。授業の前日に予備知識や関連する単語を学ぶレクチャーがあり結構しっかりしたプリントを用意してくれていた。

② 学習・研究面でのアドバイス

英語の授業ではディスカッションに積極的に参加することが大事。理系向けの授業では専門用語など予習をしないと 理解するのが難しい講師もいるので注意

③ 語学面での苦労・アドバイス等

他国の留学生の英語はなまっていることもあるので聞きづらかった。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

宿泊先はプログラムで指定されていたので自分でしなければいけなかったことは必要書類に書き込んで提出するだけだった。宿舎はキッチンや冷蔵庫が共用でトイレやシャワーは各部屋にあった。部屋の広さは十分で不便には感じ

なかった。

- ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など) 夏でも日本の 10, 11 月くらいの気温なので着るものは長袖のほうが良い。大学の周辺にはあまり店などはないので中心に出て(徒歩 10 分程)買い物はした。食事は昼は大学近くのフィッシュアンドチップスの店や Student Union 内で済ませることが多かった。夕食は市街のレストランやパブに行くことが多かった。お金については現金は少額を手元に置いて残りは部屋に置いておいた。クレジットカードは 1 枚しかもっていなかったので常に財布に入れていた。なおクレジットカードは電車やバスを予約するときに使うので必ず持っていくべき。
- ③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など) 明るいうち(21 時ごろまで)は外を一人で歩いていても大丈夫だと思うが、暗くなってからは極力出歩かないか何人かでいたほうがいい。海外でけがや病気になると面倒なので体調管理は気を付けなければならない。僕は風薬などを日本から持って行った。
- ④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算) 航空費は乗り継ぎが不安だったので直行便にした。ギリギリになって買ったので往復30万程になってしまったのがかなり後悔している。行くつもりなら決まってなくともとりあえず早めに予約したほうがいいかもしれない。他にかかるお金は食費と娯楽費が主。併せて4万円ほど使った。食費に関しては朝飯をとにかく安く済ませることに気を使った。夕飯などみんなで食べに行くことが多いと思うが外食は日本の2倍程は覚悟しておいたほうが良いかもしれない。
- ⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など) 短期超短期の奨学金を申し込んだ。成績が悪くてプログラムに含まれているのに申し込めず担当の人に紹介された。 金額は変わらないので心配はいらない。
- ⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など) 大学側が多くのアクティビティを用意しているので参加した。具体的にはパーティやバドミントン、スケート、週末の旅行など。特に旅行についてはかなり割安なので多くの人が参加していた。行先は週によって変わり自分が行ったのは Chester という都市だった。またクラスで一緒になった他の国の留学生とパブに行ったり、東大生の参加者と一緒に Manchester に行ったりもした。

派遣先大学の環境について

- ① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)
 Sheffield 大学の留学生たちが TA のように色々サポートしてくれる。また学生のためのサポートのサービスもあるのでそれを利用できる。
- ② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等) 図書館は数棟街に点在しておりかなりの蔵書がある。僕が行った図書館は学生が多くがやがやとしていた。

プログラムを振り返って

(1)プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

この留学に来るまではネイティブの人か日本の同級生としか英語を使って話をすることはなかったのですが、 今回自分と同じように英語を勉強するほかの国の留学生と一緒に学んだことはモチベーションの向上につながった し、実践的に英語の必要性を改めて感じることができた。英語の能力もネイティブの先生たちの丁寧な発音やイントネ ーションの指導のおかげで特にスピーキングが向上したと思う。今回の留学で自分の英語能力は講義をすべて聞き 取るにはまだ不十分であることが分かったのでこれからは英語学習により力を入れていきたい。3 年以降では英語の 授業がなくなるのでより自主的に英語を学んでいく必要があるし、また海外の街や大学の雰囲気を感じられたことは 今後長期の留学に行くときに重要な経験として役に立つだろう。

③ 参加後の予定

TOEFL や IELTS のスコアアップに向けて勉強。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

英語の環境に飛び込めることはとてもいい経験だったが2週間という短い期間なので大きな英語力の向上は期待しないほうがいいかもしれない。英語以外に何か目的を定めることが有意義な留学につながると思う。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

東大の留学のホームページ、留学へのアドバイスや必要なものをまとめたサイトが多くあるので自分でいくつか見て みる

②その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。